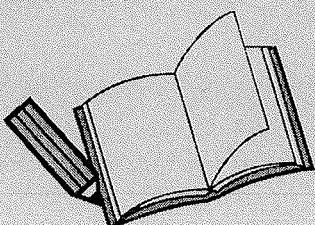
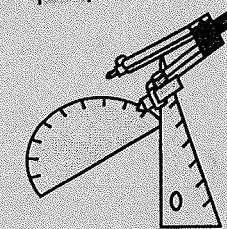
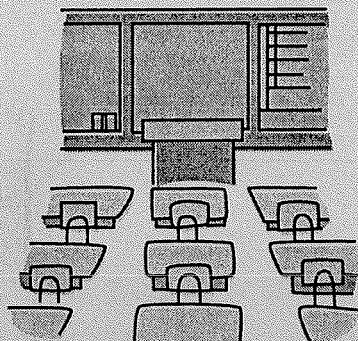
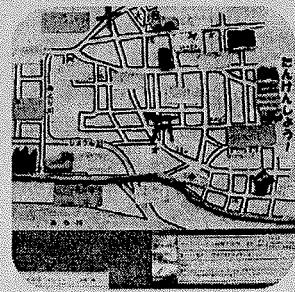


平成18年度 学力向上

明日の授業すぐに使える

アイデア実践事例集

こりや～すげえ～いいわあ
こんな事例が欲しかったあ



川口市児童生徒学力向上推進委員会

平成19年3月

< もくじ >

あいさつ 川口市教育委員会教育長 神山 則幸

1 実践事例集作成にあたって ～本市児童生徒の学力の現状と課題から～

2 各教科の実践事例

(1) 国語 事例1 「音読・朗読・群読で“読む力”を向上！」

事例2 「小学校のことを調べてまとめ、発信しよう！」

事例3 「さまざまな課題作文を、条件に注意して書く力をつけよう！」

事例4 「暗唱を中心に音読の力をつけよう！」

(2) 社会 事例1 「子どもの学習意欲を引き出す資料の活用法」

事例2 「わたしたちのまちや都道府県の名前・特徴・位置・形を地図帳やカルタを使って楽しく学ぼう！」

事例3 「基礎基本が定着し、児童の興味関心を高めるための資料活用法」

事例4 「生徒の興味・関心を高め学力を向上させるための授業の工夫」

事例5 「人物名、基礎基本の用語をカルタ等を通じて楽しく学ぼう！」

(3) 算数・数学 事例1 「算数セットで楽しく練習しよう！」

事例2 「授業の“理解度up”を図り、基礎基本を身に付ける」

事例3 「三平方の定理の導入」

(4) 理科 事例1 「一人一人が実感でき、感動できる観察活動のあり方」

事例2 「学校は、ふしぎ？ワクワク！小さな科学館」

事例3 「星や太陽の動きをデジタル教材でわかりやすく学ぼう！」

(5) 英語 事例1 「川口市英単語検定に挑戦！」

「英語詩で今の自分を表現しよう！」

資料1 平成18年度川口市児童・生徒学力向上支援事業・各教科開催要項

資料2 学力向上推進委員会設置要項

あ　い　さ　つ

川口市教育委員会教育長 神山則幸

川口市児童生徒学力向上推進委員会の研究成果として、「川口市児童・生徒学力向上アイデア実践事例集」が刊行する運びとなりました。

全国的にも子どもたちの学力低下が懸念されている昨今、児童生徒の学力向上は、本市にとりましても取組まなければならない喫緊の課題であります。児童生徒の「確かな学力」の育成には、学習指導要領のねらいの実現を目指して、わかる授業を開設し、児童生徒一人一人に学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせることが大切です。また、体験的・問題解決的な学習を充実させたり、繰り返しの指導や補充的な学習など個に応じた指導を柔軟かつ多様に導入する必要があります。

各学校においては、教育に関する3つの達成目標（学力達成目標）の効果の検証結果や県学習状況調査の結果などを踏まえ、児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握し、課題を明確にした上で指導体制や指導方法の工夫・改善を図ることが大切です。本事例集は、各教科で課題となっている分野・領域に視点を当て、市内各校での優れた実践を取り上げ、明日の授業からすぐに役立つアイデアにあふれた事例としてまとめてあります。また、学力向上を目指した研究委嘱校で実践された事例や本年度新たに開設した川口市教職員研修「学力向上研修講座」で取り上げた事例も掲載しています。さらに、「川口理科オリンピック」、「手づくり社会科マップコンテスト」、「英語の詩コンクール」など、学力向上支援事業への参加に向けて校内で取り組み、学習内容に関する興味・関心を喚起した実践なども取り上げております。

各学校の実態に合わせ、児童生徒の学力向上の取組の参考に、本冊子を有効に活用していただきたいと思います。

終わりになりますが、本冊子の発行にあたり、ご協力くださった関係各位に対し、深く感謝の意を表するとともに、本委員会並びに各学校での学力向上への取組を継続・充実され、児童生徒の学力向上に向けてより一層ご尽力くださることを祈念いたしまして、あいさつといたします。

平成19年3月

1 実践事例集作成にあたって ~本市児童生徒の学力の現状と課題から~

本市児童・生徒は、教育に関する3つの達成目標（学力達成目標）に係る効果の検証で、小学校では、40項目中30項目が、中学校では、15項目中11項目が、80%の達成率を越えており、「読み・書き・計算」などの達成目標の内容が概ね身についている状況である。また、埼玉県小・中学校学習状況調査では、小学校では、国語・社会・算数の3教科、中学校では、国語・英語の2教科が、正答率7割を超えており。小学校の理科、中学校の数学・社会・理科については、内容・領域によって課題がある分野が明確となり、教員の意識啓発とともに、指導方法の工夫・改善を図る必要があった。学力向上推進委員会では、「学力向上研修講座」を通じて各教科の課題となる内容・領域の指導方法の工夫・改善について研修を進めるとともに、各教科の学力向上支援事業を通じて、意識啓発を図ってきたところである。また、各学校での学習指導の中で、児童・生徒の理解の状況を把握し、領域や内容毎の課題を洗い出し、課題解決に向けて取り組み、成果をあげた5教科26の実践をここに事例としてまとめた。本市児童生徒の実態に合わせ、各教科で課題となる領域や内容に視点をあて、各学校での児童・生徒の学力向上を目指す指導の参考となる事例を取り上げたものである。

【国 語】

埼玉県小・中学校学習状況調査（国語）の結果から、本市児童・生徒は「書くこと」の領域において課題があることが分かった。特に、文部科学省の「読解力向上プログラム」でも指摘されている「テキストに基づいて自分の考えを書く力」が不足していると考察した。そのためには、日常的に書くことを定着させるだけなく、国語科における基礎・基本となる学力を明らかにしながら、特に「読むこと」と「書くこと」を意図的に関連させた教材の開発や指導方法の工夫等が必要である。こうした実態からの考察を踏まえ、学力向上研修講座では、国語科における基礎・基本の学力を育むための指導の在り方について、講演を受け、改めて国語科指導の重要性を確認した。さらに小・中学校の学力向上推進委員から研究と実践の発表を行い、具体的な取組みについて研修した。さらに学力向上支援事業として「読書推薦文コンクール」と題して、児童生徒が読書をし、それを推薦文にまとめるという取組を行ったところである。掲載した事例を参考に市立小・中学校が、各学校の実態に即した形で、具体的な指導方法等を工夫に期待するものである。

【社 会】

本市児童・生徒は、埼玉県小・中学校学習状況調査（社会）において、小学校では、「観察・資料活用の技能、表現」をみる問題が、中学校では、「観察・資料活用の技能、表現」「社会的事象についての知識・理解」をみる問題が、目標とする正答率に達しなかった。小・中学校ともに、社会科の学習の中で資料を効果的に活用し、資料の中に含まれている情報を多面的・総合的に読み取る力を高めることが喫緊の課題である。そこで、本年度は、学力向上研修講座（社会科）において、資料活用に関する指導法の工夫に視点をあてた研修を行うとともに、学力向上支援事業「手づくり社会科マップコンテスト」を開催し、日頃の学習の中での地図・地図帳の積極的活用、地図に慣れ親しむための学習活動の工夫、地図を用いて表現する活動等を推進し、手づくりマップ・手づくりカルタの作成などに各小・中学校で取り組んできたところである。また、本事例集は、社会的事象への関心・意欲を高め、資料活用の力を高めるための指導法の工夫に視点をあて、写真やグラフ等の資料の読み取り、地図・地図帳の活用の仕方、社会科への関心を高めるカルタづくり等の指導の実際を取り上げるとともに、指導の際のポイント、留意点等を示した。各学校においては、学力向上を目指した社会科指導において、教材の開発、学習活動の工夫、指導法の改善等の参考にされたい。

【算数・数学】

本市児童・生徒は、埼玉県小・中学校学習状況調査（算数・数学科）において、小・中学校ともに、「数と計算」「数量関係」領域においての問題が目標とする正答率に達しなかった。算数・数学部会では、基礎・基本の定着を図りながら、学習意欲を高め、学習する意義を感じながら、基礎的・基本的学力を身につけることが喫緊の課題であると考えた。そこで、本年度は、学力向上研修講座（算数・数学科）において、各学校の学習状況調査の報告や「教育に関する3つの達成目標」の検証結果を生かしながらの基礎・基本の定着を図る取り組み事例とその効果を報告し、学習意欲を高めながら学習を進めるために、教材研究や指導法のなどについての研究協議を行った。学力向上支援事業では、「算数・数学寺子屋」を開催した。各小・中学校で既に補充的な特別学習等取り組まれているが、学習が遅れがちな小・中学生を対象とした補充学習を、市内の各地区の公民館において、市立小・中学校教諭による基礎的・基本的事項の学習会を行った。また、本事例集は、基礎・基本の定着を図るとともに算数・数学科への関心・意欲を高めるための教材と指導法の工夫事例として、題材、指導の際のポイント、留意点等を示した。各学校においては、学力向上を目指し、教材の開発、学習活動の工夫、指導法の改善等の参考にされたい。

【理 科】

本市児童・生徒は、埼玉県小・中学校学習状況調査（理科）において、小学校5年生の理科の平均正答率は、目標とする正答率にほぼ到達し、学習状況は概ね良好であったが、「空気や水の体積変化を、温度変化と関連付けて考えることができる」、「星を観察するために、星座早見を適切に操作することができる」設問など科学的な思考や観察・実験の技能・表現を問う問題に正答率が低いものがあった。また、中学校理科の平均正答率は、約6割弱で目標とする正答率に到達せず、第1分野、第2分野とともに課題があることがわかった。特に、「顕微鏡の正しい操作手順を習得している」、「電流が流れるコイルの回りにできる磁界の向きを指摘できる」、「柱状図から地層の重なりを類推することができる」などは、平均正答率が5割に到達せず、科学的な思考力や観察・実験の技能・表現力に課題がみられた。そこで、本年度は、学力向上研修講座（理科）において、検流計の操作技能の向上を図る授業研究（小学校研修会）、電流計・電圧計の基本操作を扱った授業研究、柱状図の模型から地層を類推させる授業研究（中学校研修会）を中心とした研修を行った。更に、学力向上支援事業「川口理科オリンピック」を開催し、児童生徒による問題作成を通じた参加、基礎的な問題50問を競い合う理科学習大会、指導主事による導入演示実験、科学館職員によるサイエンスショー等を通じて多角的に理科の知識や技能の確実な定着に取り組んだ。なお、今回出題された問題については、各学校に配付しており、理科のつまづきの解消、定着の不十分な内容の取組み等として活用を図られたい。

【英 語】

本市生徒は、埼玉県学習状況調査において、「話すこと・聞くこと」・「書く」ことの問題正答率が7割を超えており、「読むこと」に課題を残している。「読む」力を向上させるには、まず、英文を読むために必要とされる基本的な言語材料（単語、語彙、文法等）を確実に身につけさせるとともに、概要をつかんで読むという活動に継続的・計画的に取り組ませる必要がある。そこで、本年度は、学力向上研修講座(英語科)において、「確かな学力を身につけさせる授業」に焦点をあてた研修を実施するとともに、「読む」力を向上させるための前提となる「書く」力を向上させるための学力向上支援事業に取り組んできた。多くの生徒が苦手意識を持つ「書く」力を向上させるためには、その基礎となる必修単語を正しく書けることをとおして、自信を持たせることができることが肝要と考えた。また、「書く」ことへの意欲を高めるために、自分の考え方や思いを、既習の単語や表現を用いて相手に伝えることができる活動を設定した。そのため、「川口市英単語検定」を作成し、各学校フォルダーにある「学力向上支援事業」に入れるとともに、CDを配布し、各学校での活用を図った。また、「英語の詩コンテスト」を開催し、5行詩の作成など各中学校で取り組んできたところである。本事例集では、これらの活動の具体的な活用例や語彙力を向上させる取り組みを示した。各学校において、学習活動の工夫、教材の開発等の参考にされたい。

国語 小学校 「音読・朗読・群読」

音読・朗読・群読で“読む力”を向上！

～サブテーマ～

「音読・朗読・群読」の力を高め、 国語教室を活性化させる指導法

川口市立戸塚北小学校 教諭 田嶋 陽子



ねらい

埼玉県学習状況調査の結果分析によると、特に「説明的文章の読み取り」における力が低下しているという結果となった。内容の中心や段落相互の関係を考えて読む力や、文章の要旨をとらえる力を育てるための指導の改善が必要になってきた。本校でも「読むこと」のつまずき解消の指導法を究明・実施し、「読む力」の向上を図っている。特に内容理解を深め、表現を学び取る「音読・朗読・群読」に重点を置いて指導を行っている。内容を理解するために、声に出して文章を正しくはっきり読めることは、正しい読み取りの基礎になる。すらすらと活字を読める力は、国語科の基礎力でもある。児童一人ひとりの「読むこと」のつまずきを解消し、基礎・基本の確実な定着を図る上で効果的であると考え、「音読・朗読・群読」活動を実践している。

実践例

(1) 文章を声に出して読む音読・朗読・群読の効果

① 音読の効果…国語教室と脳の活性化

最近の脳科学の研究で、「音読は、脳を鍛える」ということがわかった。東北大学の川島隆太教授の研究では、コンピュータゲームより、7+6などの基礎的な計算の方が、脳が活発に働き、さらに計算練習よりも音読練習の方が、脳が活発に働くことがわかったそうである。音読は、文章を理解するのに役立つという国語科だけの課題ではなく、脳そのものを鍛え活性化させるのである。よって、算数の文章題、社会の教科書、理科の重要事項なども、声を出させて読ませることにより、全員参加の授業づくりの第一歩となり、音読する中で、脳が活発に働き、理解も深まってくるようである。本校でも、学習の中に「音読」する機会をできるだけ多く設け「音読」を習慣化している。

「音読」は学習への参加意欲を高めながら、読解を助ける。さらに、学習成果を互いに確かめ合う手段となる。「朗読」は、「音読」の一つの形であるが、聞き手を意識して音読する活動と捉え「表現」する意識を高めて声に出して読む読みが「朗読」であると位置づけている。数名で声を出して「朗読」するのが「群読」である。つまり音読・朗読・群読は、「内容理解がねらい」である。学級全員で一斉音読や朗読・群読をすることで、リズムがあつて知的な楽しさがある授業となる。

「音読・朗読・群読」は、国語教室と脳を活性化する効果がある。

※(参考資料)川島隆太著『読み・書き・計算が子どもの脳を育てる』 子ども未来社

② 音読の効果…国語力の育成(内容理解を深め、表現を学び取る「音読・朗読・群読」)

- ◎文字・言葉・語句を正しくとらえることができる。
- ◎誤読を発見し訂正することができる。
- ◎読み取った内容を確実にし、理解を深めることができる。
- ◎文字感覚・日本語のリズムを自然に身につけることができる。
- ◎感覚を刺激し、豊かに想像することができる。
- ◎一つ一つの文字・言葉に注意を払って読むようになる。
(言葉一語一語に意味があることに気付くようになる。)
- ◎音声言語のおもしろさ・楽しさ・工夫に目が向くようになる。
- ◎文章内容の概略をつかむことができる。
- ◎文章の読み取りの中で、読み深めのきっかけをつかむことができる。
- ◎一人ひとりに自信を持たせ、聞く力を育て、集中力が身につくようになる。
- ◎日常生活の中での話し言葉(人前でまとまった内容をきちんと話すこと)
にもよい影響を与える。

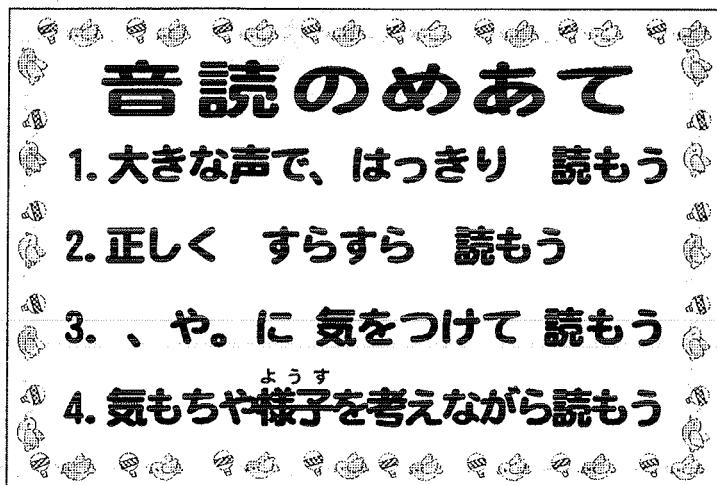
※(参考資料)『指導法ハンドブック1』 光村図書



(2) 音読・朗読・群読指導のポイント…声に出して読む音読の習慣化

声に~~出して~~読む「音読」を国語の基礎・基本的な学習と捉え、学習の中に「音読」する機会ができるだけ多く設け「音読」を習慣化している。音読の目標と指導過程、評価をはっきりさせるために、各学年統一の音読カードを作成し、毎日家庭でも音読練習に取り組んでいる。家庭で親子一緒に読んだり、カードに評価や感想を記入してもらったりすることで、児童が意欲的に目標をもって繰り返し音読練習に取り組んでいけるようにしている。低学年からの「声を出す」活動の積み重ねにより、文章を声に~~出して~~正確にすらすら読める、「読む力」の基礎・基本の確実な定着を図り、自分の思いや考え方を声に~~出して~~伝える力、生きて働く言葉の力を育てることができると考え実践している。

【中学年用教室揭示】

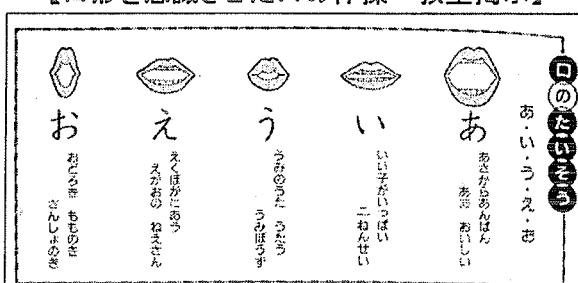


【音読カード】

①発声・発音練習の充実

豊かな表現力を育てるためには、まず、しっかりとした発声・発音の仕方を身につけ、「声」を育てることが大切と考える。そこで、「口の体操」や「言葉遊び歌」など楽しい活動を通して、しっかりとはつきりした声を出す方法を継続的に身につけていくよう取り組んでいる。また、音読・朗読・群読をする際も①姿勢②口形③発声・発音④強弱⑤抑揚⑥間⑦速度等を常に意識させている。音読のしかたを工夫する過程(朗読)では、音読記号などの書き込みを用いて、どこをどのように読みばいいのか読み方を具体的に考えさせる。記号や言葉を書き込むことで、作品に対する自分の読みを再構築していくかれると考え活用している。

【口形を意識させた口の体操…教室掲示】

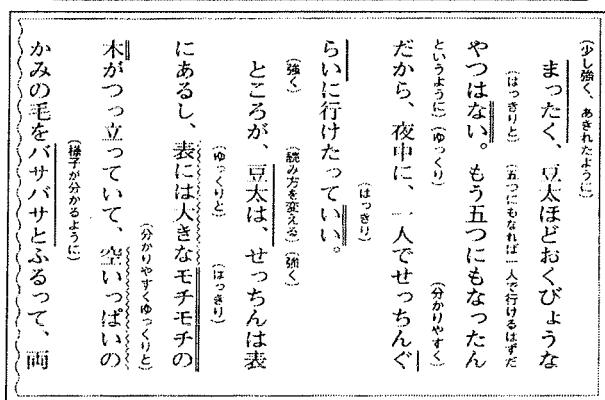
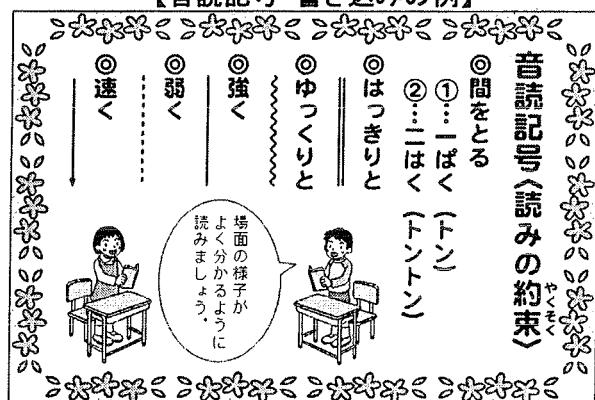


【はっきりした声で読む工夫…具体的なアドバイス】

- ・正しい姿勢…背筋をぴんと伸ばしましょう。
 - ・口の形 …「あいうえお」の口の形を鏡で確かめてみましょう。
…口をしっかりと開けて読みましょう。
 - ・大きな声…「。」でしっかりと息を吸って読みましょう。
…黒板に声をぶつけるように読んでみましょう。
 - ・読み方 …「～ます。」までしっかりと読みましょう。
…ゆっくりとていねいに読みましょう。
 - ・ほめ方…○○さんのいい声が聞こえます。
…とても良い姿勢です。背筋を伸ばすと、
はりのあるいい声が出ます！



【音読記号・書き込みの例】



②音読で始まり音読でまとめる授業の展開

一単位時間の学習の中に、「学習範囲確認のための音読」「読解のための音読」「学習のまとめの音読」を取り入れ、「音読」を読み取りの手段として活用している。授業の始めに学習範囲を音読し、正しい読み方を確かめ合う。課題となった文章を読みながら、内容を正確に理解していく。授業のまとめとして、学習を振り返りながら「音読」し、理解したことを確認する。つまり、「音読」を通して学習意欲を高め、文章の読解を深め、学習成果を確かめ合えるようにする。理解したことを声に出して読む「音読」で聞き手に伝え、互いに確認し合うことになるので、児童一人ひとりの聞く耳を育て、自分の思いや考えを聞き手に声で伝える表現力を育てることができると考え、取り組んでいる。なお、読み手・聞き手には、それぞれ何のために読むのかといった「音読」するめあてをもたせるようにしている。

【読み手へのめあて(例)】

- ・誰が出てくるか、何をするのか考えながら読みましょう。
- ・前の時間に学習した場面との違いを見つけながら読みましょう。
- ・登場人物の気持ちや様子、筆者の考えが分かるところを見つけながら読みましょう。



【聞き手へのめあて(例)】…聞き上手が読み上手！

- ・友達の読みを聞きながら文章を目で追い、心の中で一緒に音読しましょう。
- ・友達の音読を聞いて、上手なところを見つけましょう。
- ・先生の読み(範読)や友達の読みを聞いて、難しい言葉に線を引きましょう。



【音読発表にて…読み手のめあて発表】

- 「や。に気をつけて読みます。」
- 「○○になったつもりで読みます。」
- 「○○な気持ちで読みます。」



【音読発表後…聞き手からの評価】

- 「とても良い姿勢で、すらすら読んでいました。」
- 「がまくんのかなしい気持ちが、伝わりました。」
- 「…のところが、声を工夫して読んでいました。」

③一斉読み・追いかけ読み・リレー読み・各自読み・役割読みなど多様な音読活動の工夫

一斉読み・追いかけ読み・リレー読み・各自読み・役割読みなど、多様な音読活動を学習の中に取り入れ、児童がすらすら、生き生きと楽しく音読できる場を多く設定している。効果的な場面に、いろいろな方法で音読することにより、日本語の優れた言葉の響きやリズム感を楽しみながら自然に体感できるようにしている。

一斉読み…クラス全員で一斉に声や調子をそろえて読む。学習の雰囲気を高めるため、また音読が苦手な児童に効果があると考え、授業の始めに取り入れている。

追いかけ読み…教師が一文を読み、児童が同じ文を繰り返して読む。正しい読み方を丁寧に指導することをねらいとしている。教材の導入時、難語句や間違えやすい言い回しなどがあったときに活用する。

リレー読み…「。」で交代しながらクラス全員でリレー法で読み進めていく。すらすら読めないときなどに活用。聞き手は、読み間違いがあつたら教えてあげる。

各自読み…一人ひとりが自分のペースで何回も読む。何回も声を出して読むことで、文脈をつかみ文章の意味を理解していくと考え、自分自身の理解を深めるために活用している。

指名読み…読みたい、または読ませたい学習者を教師が指名し、一定の部分を音読させる。聞き手を意識して、相手に分かるように読む。良い読み手を育てるために、読み終えたときは、必ず聞き手に音読の評価をさせる。

役割読み…登場人物や語り手など役割を決めて読む。会話文の部分を役を決めて読ませると気持ちを考えながら読むことができる。「学習のまとめの音読」へ結びつけるには効果があると考え、取り入れている。

ペープサーント…登場人物の紙人形を作り、それを操作しながら、それぞれの役を表現する。人物の気持ちに寄り添いながら動作や表情を加えたり、声の大きさを工夫したりして、楽しみながら理解と表現の一体化を図るようにする。

④音読でつまずいている児童への指導のポイント

★すらすら読めない児童には、教師が一文を読み、児童が同じ文を繰り返して読む「追いかけ読み」をする。教師の読む通りに繰り返し読ませ、正しい読み方を丁寧に個別指導する。

★学習の始めには全員で声をそろえて読む一斉読みを行う。つまずいている児童も友達の読む声を聞きながら、みんなの速さについていくように意識して読むことで力をつけていく。

★音読でつまずいている児童の側へ行き、読んでいる所を指で押さえながら一緒に読む。

★捨い読みの児童には、文節ごとに読む部分を人差し指と親指ではさみながら読ませると文意識を育てることができる。

★自分で読み方を工夫することができない児童には、教師や音読が得意な友達の読み方の模倣を許容する。また、自分の読みの工夫に意欲と自信をもたせる。

⑤群読活動の実践

「群読」は、「一人ひとりが声を出すことの集まり」であり、集団で楽しめる魅力がある。本校で実践している全校群読は、「声のオーケストラ」のよう、児童は声を出す喜びと楽しさ、言葉の響きを体で感じ取り、生き生きと声を響かせている。毎月、集団でリズム感を楽しめる、低学年でも読める詩を提示している。学級や学年及び学校の児童全員で、季節に合った「詩」を共に声に出して読み合う群読活動を通して、声を出す楽しさ、日本語の優れた表現、読むことができたという喜びと共に味わわせながら、「発声・発音」「読むこと」の基礎的な能力の定着を図り、豊かな心と言語感覚を育てている。

【全校群読…毎月1回実施】



【毎月の群読活動用プリント例 1月の詩】

(3)「読むこと」のつまずき・評価を記録する個人カルテの作成・活用

【個人カルテ「自分づくりカルテ(読むこと) 2年】

2年 国語 自分づくりカルテ(「読むこと」)		2年 組名前		
小学校1・2年生で、しっかり身につけましょう。 ○順序を考えながら、書いてあることを読み取ることができるようにしましょう。 ○ひとまじまりの語や文として、はっきりした声で読むことができるようになります。			評価の観点 ○…達成している △…もう少しである	
				7月
項目 ①「読む力」…書かれている事柄の順序や画面の様子などに気づきながら読む力		ふさのとう		
②読み聞かせを聞いたり、やさしい読み物を楽しんで読むことができる。		たんぽぽのちえ		
③順序を考へながら、書いてあることを正しく読むことができる。		スイミー		
④語や文のまとまりを考へながら、声に出して読むことができる。		おおきくなあれ ・サンゴの海の生きものたち ・お手紙 ・お話がいいかい ・一本の木		
「語」についての知識・理解・技能 …「読むこと」(発音・発声・文字)に関する言語の基礎的な事項				
①豊富、口の形に気をつけて、はっきりした声で読むことができる。 ②かたかなを正しく読むことができる。 ③読った漢字を詳しく読むことができる。 ④点(.)や丸(.)、かぎ(フリマカタ)に気をつけて読むことができる。				

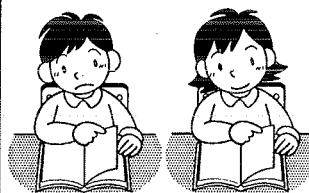
成 果

音読の習慣化を図り、「音読で始まり音読でまとめる授業」を展開してきた。声に出して読むことで、文章の内容を正しく理解するだけでなく、細かな表現まで意識して読み、言葉一語一語に意味があることに気付く児童が増えた。また自分の声を自分の耳で聞きながら読むことで、声で表現する楽しさや読める喜びも実感できた。日本語の持つ言葉の響きやリズム感。優れた表現も味わうことができ、音読の効果は大きかった。また、全校群読を委嘱研究発表会で実施し、積み重ねの成果を認められ高い評価を受けた。特に暗唱と高学年の声に確実な「発声・発音」「読むこと」の基礎的な能力の定着を感じた。「教室の活性化」と「読む力」向上のために、音読指導を全教科で実施するべきと考える。

〈ねらい〉

○児童の「読むこと」のつまずきを的確に評価し、より良い自分づくりの一助となす資料とする。

○「読むこと」において身につけさせたい基礎・基本の力を明確にし、三者(7月)・二者(12月)面談での資料として活用する。

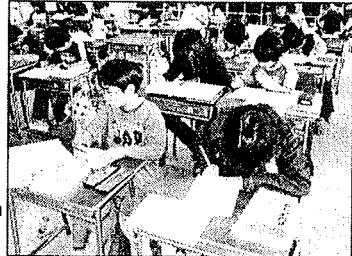


国語 小学校4年生 単元「四年三組から発信します」

小学校のことを調べてまとめ、発信しよう！

~サブテーマ~

習熟度別・少人数学習指導で 「書くこと」のつまずきを解消



川口市立戸塚北小学校 教諭 田嶋 陽子

ねらい

埼玉県学習状況調査の結果分析によると、児童の「書くこと」「言語事項」における力が低下している・個人差が大きいという結果となった。そこで、本校では「書くこと」「言語事項」に重点を置いて習熟度別・少人数学習指導を行っている。「書くこと」「言語事項」の領域を中心として、低学年から習熟度別・少人数学習を導入し個に応じた学習指導を行っている。児童一人ひとりの「書くこと」のつまずきを解消し、基礎・基本の確実な定着を図る上で効果的であると考え実践している。

【習熟度別・少人数指導における利点…「わかる」「できる」という思いを一人ひとりが実感】

- ①児童の発言や言語活動の機会増加
 - ②習熟の違いに応じた支援・学習活動の展開
 - ③多様な学習課題や学習方法への対応
 - ④他学級の児童同士による交流
 - ⑤複数教員による多面的な児童理解
 - ⑥教員間の指導力・チームワーク向上

実 践 例

(1) 個に応じた学習指導の工夫(習熟度別・少人数学習指導の実施)

習熟度別・少人数学習集団による指導では、次の2点を目的として実施している。①「基礎・基本の確実な定着を図る学習指導」②「主体的な学習を目指した個に応じた学習指導」…以上の2点をふまえ、本単元では、「書くこと」のつまずきに応じて少人数学習集団を編成する。学習集団の編成に当たっては、児童の「学習意欲」「主体的に取り組む姿勢」を優先することから、均等分割をする場合を除き、「児童がテストの結果や自己評価をもとに、自分の学習するコースを自分で選択する」ことを原則としている。

よって、本単元に入る前に、言語に関するテスト・「書くこと」チャレンジテストの結果及びこれまでに書いた作文や新聞等から、「書くこと」のつまずきを発見し実態を把握しておく。次に、設定された学習コースの特徴や学習内容を説明するオリエンテーションを行い、児童に適切なコースを選択させる。この時、実態と学習コースとの差がある場合は教師が簡単なアドバイスをするが、最終的な判断は児童に任せるようにしている。【つまずきを発見…本校独自の学習プリントを活用】

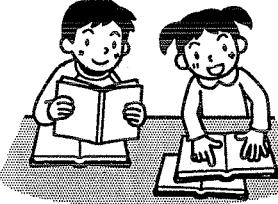
コースを選べない児童には、必要に応じて教師が個別に相談にのるようしている。

教材文を読み、取り上げる題材を決め取材(材料集め)し、メモにまとめた後、「材料を選び、記事を書く」活動に入る。この際、児童は以下の3コースから選択する。
①発展コースは、「相手や目的に応じて選材し、表現の工夫をしながら自分で書き進める」
②習熟コースは、「相手や目的に応じた選材・書き方を学習しながら、書き進める」
③基礎コースは、「書きやすい材料を選び、教師の助言を受けながら書き進める。」

(2)「書くこと」「言語事項」領域でのつまずき解消の主な指導法

予想される児童のつまずきのうち★の部分は基礎コース、☆の部分は習熟コースにて解消を図る。

- ★ア 書くこと、そのものに苦手意識がある
- ★イ 取材メモも書けない児童への指導のポイント



※共通の題材について一人ひとり話すことから文を書くきっかけを作る。
※声に出して言った文(口頭作文)を1文ずつ、作文カードに書かせる。
※書きだし文を入れたなぞり書き用作文補助カードを使い、文を続けて書きだせるようにし、個の習熟の状況に応じた指導をする。

- ★ウ 取材メモから、文をどう書いていいのかわからない。(文の構造が理解できていない)
- ★エ 1文が極端に短く、分かりやすく詳しく書くことができない。
- ★オ 主述関係がうまく呼応せず、おかしい文になってしまう児童への指導のポイント

※作文の基本文型を示す。

・ □ は、～です。 □ は、～します。 □ の～は、～です。

※様子を詳しくする言葉(修飾語)の活用例を示し、文を分かりやすく、より詳しく書かせる。

- ☆カ 記事が調べた内容そのままであり分量が多くなる
- ☆キ 1文が簡潔でなく、長く複雑にだらだら書いてしまう。
- ☆ク 簡単な段落構成を考えながら書くことができない。
- ☆ケ 段落の始めや会話の部分などを改行して書くことができない児童への指導のポイント



※字数を制限し、1文を50字程度で書けるよう意識させる。

※段落ごとに原稿用紙を替えて書かせる。

※各段落ごとに用紙の色を変えて、段落構成を視覚化していく。

※多くても、2～3文で一つの段落を構成するぐらいの分量にする。

※今回は①書き出し②いちばん知らせたいこと(事実)③記者の意見・感想で、1つの記事を構成するよう指導する。

(1段落100～150字程度と考え、400字～500字程度に記事をまとめさせる。)

※各段落ごとに書いた原稿用紙をつなぐ際、段落と段落との関係をよく見つめて、つなぎ言葉などを必要に応じて指導する。

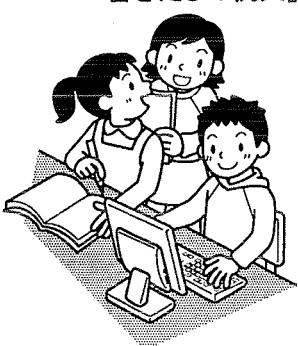


- ☆コ 読み手を意識した書きだしの文が思いつかない児童への指導のポイント

※書きだしの例文をいくつか示し、読み手を意識した書きだし文を考えさせる。

- ①いつ・どこで・だれが・どうした・から書きだす
- ②会話から書きだす
- ③音などから書きだす
- ④書こうと思ったきっかけ・問題点から書きだす
- ⑤話の中心から書きだす…等

【本单元で使用する 「書きだしの例文】】



書きだし名人になるコツ

平成二年九月十九日に、北小の子どもたちが、第一回運動会を行いました。

①いつ・だれが・どこで・どうした・から書きだす

②会話から書きだす

③音などから書きだす

④書こうと思ったきっかけ・問題点から書きだす

⑤話の中心から書きだす…等

「これは、何だろう。」
と、四年生みんなが、いました。

パン。 ガシャン。 ジャボン。

みんなは、戸づか北小学校のすばらしいところを知つて調べてみました。

わたしは、戸づか北小学校の校しようの意味を知りました。

戸づか北小学校は、平成二年四月一日に誕生しました。

(3) 本単元で使用するワークシート・作文カード

<p>新聞を作り、発信しよう</p> <p>題 目</p> <p>【新聞記事に使うこと】を整理（大事な要素でいくつ）しよう</p> <p>記述の組み立て式</p>	<p>新聞を作り、発信しよう</p> <p>題 目</p> <p>【新聞記事に使うこと】を整理（大事な要素でいくつ）しよう</p> <p>記述の組み立て式</p>	<p>新聞を作り、発信しよう</p> <p>題 目</p> <p>【新聞記事に使うこと】を整理（大事な要素でいくつ）しよう</p> <p>記述の組み立て式</p>
<p>〔1〕 目的や構成に合わせて、知りたいことを選ぶ。 ★語ってみたい物について調べ、材料を収めよう。</p> <p>〔2〕 知りたい物について調べ、材料を収めよう。</p> <p>★語ってみたい物について調べ、材料を収めよう。</p> <p>★自分の意見・感想も、参考だ」となど書くとよい。</p>	<p>〔1〕 今日の学習を振り返り、まとめよう。 ★今まで分かったことなどをしよう・かんたんに…必要な知識も書いておこう。</p> <p>〔2〕 今まで分かったことなどをしよう・かんたんに…必要な知識も書いておこう。</p> <p>★自分の意見・感想も、参考だ」となど書くとよい。</p>	<p>〔1〕 いわばん知らせた感じ 〔2〕 図表</p> <p>〔1〕 いわばん知らせた感じ</p> <p>〔2〕 図表</p>
<p>〔1〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p> <p>〔2〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p> <p>〔3〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p>	<p>〔1〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p> <p>〔2〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p> <p>〔3〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p>	<p>〔1〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p> <p>〔2〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p> <p>〔3〕 「新聞を作り、発信しよう」 題 材</p>
<p>〔1〕 おわり 〔2〕 おわり 〔3〕 おわり</p>	<p>〔1〕 おわり 〔2〕 おわり 〔3〕 おわり</p>	<p>〔1〕 おわり 〔2〕 おわり 〔3〕 おわり</p>
<p>〔1〕 おわり 〔2〕 おわり 〔3〕 おわり</p>	<p>〔1〕 おわり 〔2〕 おわり 〔3〕 おわり</p>	<p>〔1〕 おわり 〔2〕 おわり 〔3〕 おわり</p>

【本单元で使用する「文の書き方(例)」】

【児童の作品・基礎コースの児童】

（写真）戸塚北小学校の校門前にある「南風の少女」の銅像

みなさんには、戸塚北小学校のふれあい小道や中庭に、子どもの銅像があることを知っていますか。その銅像のことを伝えたいと 思います。

子どもの銅像があるわけは、芸術一心に感じたことや思つたことを形・色・音・声・言葉などで表すことにふれてほしいからだそうです。銅像は、東西南北を向いていて、四つあります。「つりに行く少年」は、あやせ川につりに行くといつお話になつてゐるのです。

ぼくは、
(銅像は、よくできているな。)
と思いました。その理由は、「南風の少女」が片足だけで立つていて、六十センチメートルも身長があるのでバランスがいいからです。「とんぼとりの少年」は、あみを持つところは鑄物でできているけれど、虫をとるところは本物のあみでできているので、おどろきました。「北風小僧」は、「戸塚北小学校へよう」などといつてゐるような感じがします。

（写真）か北小学校の図書室は、かべのないオープンスペースになつています。

（写真）か北小学校は、平成二年四月一日にたん生したところが分かりました。

（写真）屋上には、広いプールがあります。そのわけは、校庭を広くつかえよつになるからです。

（音楽室には、しせいを見るための大きながみがあるそです。

(4)「書くこと」のつまずき・評価を記録する単元毎の評価カルテ及び個人カルテの作成・活用
〈ねらい〉

- 児童の「書くこと」のつまずきを的確に評価し、より良い自分づくりの一助となす資料とする。
- 「書くこと」において身につけさせたい基礎・基本の力を明確にし、三者(7月)・二者(12月)面談での資料として活用する。

【個人カルテ「自分づくりカルテ(書くこと) 4年】

4年 国語 自分づくりカルテ(「書くこと」)		4年 組名前	
 <p>評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○…達成している △…もう少しである 			
小学校3・4年生で、しっかり身につけましょう。 ○文の意味を考えて既読点(。)を打ったり、文章のまとまりを考えて改行することができるようになります。 ○漢字を読みたり書いたりできるようになります。 ○国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、活用できるようになります。			
項目	主な教材名		7月 12月
《書く能力》…相手や目的に応じ、段落を工夫して文章を書く力	7月	12月	
①必要な材料を選び、内容を整理して報告文や字幕新聞などに書くことができる。 ②書こうとする中の中心を明確にしながら段落と段落との接ぎ方に注意して書くことができる。 ③相手や目的に応じ、調べたことや自分の考えが伝わるように工夫して文章を書くことができる。 ④文章のよいところを見つかり、間違いなどを正したりすることができます。	新聞記者になろう	四年三組から発行します 生活を見つめて	
《言語についての知識・理解・技能》…「書くこと」(文字・表記・語句・文)に関する言語の基礎的な事項	7月	12月	
①書いた漢字を正しく書き、文や文章の中で使うことができる。 ②送りがなに注意して書くことができる。 ③ローマ字で書かれた言葉を読みたり、身の回りのものをローマ字で書いたりすることができます。 ④句読点を適切に打つことができる。 ⑤段落の始めや会話の部分などを改行して書くことができる。 ⑥読みえない漢字や意味の分からぬ言葉を辞書を使って調べることができます。 ⑦指示器や接続語を正しく使って書くことができる。 ⑧文章の敬体(…です。)・常体(…である。)の違いに注意して書くことができる。	新聞記者になろう	生活を見つめて	

【評価カルテ…単元毎につまずきと評価を記録】

【本時に使用する自己評価カード】

4年 国語評価カルテ「四年三組から発信します」 4年1組																																																																			
<p>【単元の評価規定】</p> <p>ア 開心・意欲・態度…学校や地場にある物について知らせるために進んで取材し、相手や目的に応じて選材し分かりやすく伝えようとしている。</p> <p>ウ 書くこと…相手や目的に応じて必要な材料を集めたり、演説したりして、分かりやすく書いている。</p> <p>オ 言語事項…句読点を適切に打ち、いろいろな符号も正しく使っている。</p>																																																																			
<p>【児童のつまずき】…「書くこと」「言語事項」 ★基礎コース ☆習熟コース</p> <p>★ア 書くこと、そのものに苦手意識がある。 ★イ 取材メモも書けない。</p> <p>★ウ 取材メモがら、文をどう書いていいのがわからない。(文の構造が理解できていない)</p> <p>★エ 文が極端に短く、分かりやすく詳しく述べくことができない。</p> <p>★オ 主述関係がうまく呼応せず、おかしい文になってしまう。</p> <p>☆カ 記事が説いた内容そのままであり、分量が多くなる。</p> <p>☆キ 一文が簡潔でなく、長く複雑にだらだら書いてしまう。</p> <p>☆ク 伝えたいことや自分の考えが相手に分かるように、簡単な段階構成を考えながら書くことができない。</p> <p>☆ケ 読み手を意識した書きだしの文が思いつかない。</p> <p>★コ 助詞「は」「を」「へ」の表記が正しくできない。</p> <p>★サ 句読点を適切に打つことができない。</p> <p>☆シ 政治の始めや会話の部分などを改行して書くことができない。</p>																																																																			
<p>【児童のつまずき】</p> <p>（評価）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童名</th> <th>アイ</th> <th>ウエ</th> <th>オカ</th> <th>キク</th> <th>ケコ</th> <th>サシ</th> <th>知らせたいこと</th> <th>開</th> <th>書</th> <th>言</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戸北 太郎</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>△ 第1回運動会</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>戸北 花子</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>✓</td> <td>戸塚北小の誕生</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> <tr> <td></td> </tr> </tbody> </table>		児童名	アイ	ウエ	オカ	キク	ケコ	サシ	知らせたいこと	開	書	言	戸北 太郎	✓	✓	✓	✓	✓	✓	△ 第1回運動会				戸北 花子	✓	✓	✓	✓	✓	✓	戸塚北小の誕生																																				
児童名	アイ	ウエ	オカ	キク	ケコ	サシ	知らせたいこと	開	書	言																																																									
戸北 太郎	✓	✓	✓	✓	✓	✓	△ 第1回運動会																																																												
戸北 花子	✓	✓	✓	✓	✓	✓	戸塚北小の誕生																																																												
<p>（※ ✓…つまずいている △…もう少し ⚡…つまずきが解消できた）</p>																																																																			
<p>□ 分かりやすく書けたかな?</p> <p>ふりカエルくんより</p>																																																																			
<p>① 今日の学習活動について、ふりかえりましたか。 ★ 繰り返すのことを考えて、やさしく分かりやすい言葉で書くことができましたか。 ★ 今日の午前は、楽しく遊んでできましたか。</p> <p>② 今日の学習をふりかえって、気づいたことや思ったことを書きましょ。</p> <p>★ 主題となる語の正しい文を書くことができましたか。 ★ 句読点(「。」、「。」、「。」、「。」)を正しく使うことができましたか。 ★ 読った漢字を覚んで正しく使うことができましたか。 ★ 一つことに読み返し、またがいを正しく使うことができましたか。</p> <p>（四年組）</p> <p>国語「新聞を作り、発信しよう」 学習ふりかえりカード</p>																																																																			

成 果

「書くこと」及び「言語事項」の定着を目指し、習熟度別・少人数学習指導を実施してきた。3年生からは、学習支援員にも指導に協力して頂いた。「文章の書き方や正しい表記の学習(会話・改行・句読点)」や「漢字や辞典の学習」等、効果的な場面にTTによる指導及び習熟度別・少人数指導を導入することにより、個に応じた多様な指導及び基礎・基本的学習指導の徹底を図ることができた。特に、書くことを苦手としていた児童が、少しずつ書く自信と力をつけてきている。また、「書くこと」「言語事項」領域でのつまずきを分析し、その解消の指導法を授業研究にて具体化したことは、個に応じた指導法の明確化と児童の「書くこと」への意欲・自信・基礎力を高めることにつながった。

国語 中学校2年生 選択国語「課題作文」

さまざまな課題作文を、条件に注意して書く力をつけよう！

～サブテーマ～

基礎基本を踏まえた作文の学習

川口市立芝中学校 教諭 加藤 祐子

はじめに

「教育に関する3つの達成目標」到達度調査において、本校生徒の「読む・書く」領域の到達度は、全体としてはおおむね良好であったが、「書く」特に「作文」の力に関しては達成目標に届かず、生徒1人1人の答案を見ても、作文力の差は非常に大きいものであった。この差をなくしつつ、全体的に「書く」力をつけていくためにはどうすればよいか。以下のような実践を考えた。



ねらい

中学校の国語では、小学校での「作文」学習をもとにしたある程度の知識や技能を身につけているといった認識で「作文」の授業を行うが、実際には文章を構成する力や、推敲する力の育成以前に、「原稿用紙にきちんと書く」ということがおぼつかない生徒がかなり見受けられる。つまり学習のスタート段階すでに「書く」力に非常に大きな差がついているのである。そのような生徒はたいてい「作文」=できない=書きたくない、という悪循環に陥っている。また、ある程度書くことのできる生徒も「自分の文章をさらによりよくするためにはどうしたらよいのか」という意識が低く、とりあえず規定量を書けばそれでよし、という取り組みで終わってしまうことが多い。そこで、時間をかけてじっくりとまず基礎基本から段階を踏んで「作文」学習に取り組み、意欲を高めていくことをねらいとした。

実践例

(1)「視写」をもとにしたくり返し学習について

「国語便覧」を使って、もう一度「原稿用紙の使い方」について確認をしてみた。大まかな点ではわかっているが、句読点や記号の使い方等については案外知らない生徒も多く、あらためて基本事項を確認することの大切さを認識した。その上でまず、200字程度の文章を決まりに従って正確に視写する学習に取り組んだ。早く・正確に・美しくという書写の目標を念頭に置かせながら、集中して書く。書き上がった原稿を生徒同士でお互いに見せ合い、食い違っている点があればもう一度「原稿用紙の使い方」を見て、誤りを修正する。その後、模範原稿を配布して最終確認をする。

次に、誤字脱字、文脈や文体の乱れ、句読点や記号等の使い方が不適切な文章を提示し、正しい文章になおした上で原稿用紙に書き写す。さまざまな文章例を使ってくり返し視写することにより、意識的に文字や語句に注意しながら書く姿勢を身につけさせた。

(2) 柱立てと構成の練習について

正しい書き方等をしっかりと習得させた上で、次に「事実」「体験や経験」のまとめ方・問題文の要点の捉えかた・グラフや図表等の読み取り方など、作文を書く際に柱となる内容を簡潔にまとめる練習を行う。課題作文では、条件としてまず「自分の体験したことをふまえて」とか、「アンケートの結果をふまえて」とあり、その後で自分の考え方や意見を書かせる場合が多いため、体験や資料の分析結果の部分がまとめきれず、結局一番大事な結論の部分が全体の4分の1、ひどい場合にはほんの2~3行でいかにもとつて付けたような感じになってしまう。

そこで、全体の分量のバランスを考えて、多くても全体の3分の1程度でまとめるためにはどうすればよいか、さまざまな資料や文章を使って練習した。列挙の仕方・文末の表現・短く簡潔な語彙への言いかえ・接続語や指示語の効果的な使い方などを1人1人の答案文を例示しながらお互いに意見を出し合い修正しつつよりよい文章を作り上げていく。

次に、「自分の考え方や意見・提案」を文章化していく。ポイントを1つに絞り、中心文をはっきりさせた上で、理由・効果・方法などを書いていく。ここでも、文末の表現・文脈の乱れに注意し一文の長さを短く抑えることを意識させた。作文を書く際に、事実や体験を述べる箇所よりも主張や提案を述べる箇所のほうが一文が長くなりがちである。結果として文脈が乱れていたり、文体が不統一な文章になる可能性が高くなってしまう。一文の中で述べる内容は1つに絞り、接続語の効果的な使用により文と文をつなげていくことで、簡潔な文章になるようにする。

(3) 推敲について

推敲は作文を完成させる上で必要不可欠であるが、実際には一度書いてしまった作文を書き直したり、部分的に修正していく作業を生徒はほとんど行っていない。書き上げた作文をよりよくしていく、または修正していくためにどうすればよいかということは、一通り文章を書くことよりもおっくうがる場合が多い。1つには、一箇所修正したり別の表現を使おうとすると、全文を書き直さなければならないという意識が働くからである。時間や文字数の制約が厳しい課題作文の場合、その傾向が大きい。

そこで次の2つの方法を試みさせた。まず誤字や脱字・文脈の乱れなどの原稿用紙の使い方にに関する修正については、文字数を変えないように語句を入れ替えたり、うまく句読点を加除したり、漢語と和語を相互に入れ替えたりといった方法を行う。そのためには豊富な語彙力や表現力が必要になってくる。例題を使って、生徒全員で考えさせたり、生徒自身が書いた作文をお互いに読みあい上記のような方法で修正させたりすることで少しずつ推敲にたいする抵抗感をなくしていくことに努めた。

次に内容についての推敲に関しては、全文を書き上げてからではなく、一文を書き上げるたびに推敲していくやり方を意識させた。そうすることによって、論点がずれてしまったり文体が途中で変わってしまったりといったミスがなくなっていく。記述量の配分についても確認しながら書くことができ、最後のほうになって慌てて終わらせたり、字数が足りずに同じことを繰り返して記述するようなことがなくなっていく。

以上2つの方法を使って推敲を終えた作文について、生徒同士がお互いの作文を読みあって、友達の作文のよい表現や自分とは違った見方・考え方などをさらに作文に書かせた。

成 果

最初は試写をすることすら、かなりの時間をかけなければ終わらなかった生徒が見られたが、時間をかけ、段階を踏んでくり返し練習することであまり間違えることなくスムーズに文章を書き写すことができるようになった。また、推敲をしっかりと行うことにより表現上のミスが少なくなり、きちんと丁寧に書くようになった。

課題としては、作文を書く上で語彙力の個人差がかなり大きな影響を与えるので、どのようにして語彙力をつけさせるかということがあげられる。

国語 中学校2年生 「古典」

暗唱を中心に音読の力をつけよう！

～サブテーマ～

古典の暗唱を中心とした音読の学習

川口市立芝中学校 教諭 加藤 祐子



はじめに

「教育に関する3つの達成目標」到達度調査において、本校生徒の「読む・書く」領域の到達度は、全体としてはおおむね良好であった。しかし調査によってわかる「読む力」は「読解力」であり、黙読による内容や要旨の理解である。中学生の場合、学年が上がるにつれて「音読」に対して抵抗感を持つ生徒が見られるようになってくる。しかしそうすると「音読」することは文章を理解する上で必要不可欠の条件である。そこで「音読」にどう取り組めばよいかについて考えた。

ねらい

中学2年ともなると、授業中大きなはっきりした声で発言したり、教材の文学的文章を感情を込めて読むことに、照れや抵抗感を持つ生徒が出てくる。また、漢字の読み方や語彙自体を知らないために「間違って読んだら恥ずかしい」という思いが強く、自信のない小さな声でおそるおそる音読する生徒も見受けられる。しかしそうすると音読をくり返しすることで、文章の内容はほぼ頭の中に入ってしまうと言っても過言ではない。「視写」同様「音読」もまた最もシンプルだが最も堅実な学習方法である。そこで、古典教材というある意味日常の言葉から少し離れた文章を用い、「暗唱」に意欲的にチャレンジさせながら、抵抗感無く「音読」に取り組む姿勢を持たせていくことをねらいとした。

実践例

(1) 中学1年での暗唱の取り組みについて

「竹取物語」の授業に入る際に、冒頭部分の暗唱を課題として全員に提示した。そして授業中、読みの練習をさまざまなやり方で行った。

教師の範読を聞く。→句点ごとの範読の後に一斉読み。→段落ごとに範読の後に一斉読み。→個人の読み練習→句点ごとに1人ずつ順番読み。→段落ごとに1人ずつ順番読み→希望者に全文読み、などとすこしずつ難易度を上げながらくりかえし読みの練習をし、文章を見ながらすらすら読めるようになったところで、暗唱に取り組ませていく。暗唱については次のような約束で行った。

- ・課題提示後、3回の授業時間の最初にクラス全員の前で発表する。
 - ・1~3回のどの授業内にやってもよい。失敗したら次回再挑戦も出来る。
 - ・1回目にクリアすれば「超人」2回目なら「達人」3回目は「名人」にランクする。
- 以上の条件で取り組ませたところ、1年生全員の生徒が3回までにクリアすることが出来た。

(2) 1年の取り組みを踏まえた2年での取り組みについて

2年での最初の古典教材である「枕草子」第一段については、昨年の暗唱の取り組みを覚えていた生徒が大半で、暗唱に対して全く抵抗なくスムーズに進めることが出来た。昨年同様、最初に教師の範読や一斉読み、個人読みの練習を行った後、1年の時の暗唱課題の約束に加え、

- ・全文を春夏秋冬の四つの部分に分け、部分ごとに挑戦してよいが合格最低ラインは「春・夏」とする。
- ・「春・夏」合格後、期間内ならさらに「秋」「冬」と段階を踏んで挑戦してもよい。ただし、必ず最初から暗唱する。
- ・1回目で全文暗唱の上に、「一度もつかえたり言い間違えたりしないで全文暗唱」の最難度レベルを設ける。
- ・全文暗唱できなくても、それぞれの部分を一度もつかえたり言い間違えたりしないで暗唱した場合は「春・夏の上」「秋の上」等にランクする。

以上の約束で取り組みを進めた。この取り組みは非常に盛り上がり、休み時間や昼休みに暗唱練習する生徒の声があちこちの教室で聞かれ、2年生全員が「春・夏」に合格することが出来た。最難度レベルに合格する生徒も各クラスに最低3~4人はおり、クラス全員の「ほおーっ」という賞賛のためいきも聞こえた。

(3) 暗唱の取り組みから考えられること

古文の暗唱に取り組む生徒の様子を見ると、普段音読に対して非常に消極的な生徒が一生懸命覚えた文章を全員の前で発表したり、漢字が苦手で説明文などの音読では読み違いや言いよどむことがたびたび見られる生徒がすらすらと一気に暗唱したりと、意外な面を発見し驚かされることがあった。「暗唱しなければならない」という緊張感や「古文」という普段言い慣れない言葉を発音することに意識を集中するため、照れやよけいな気負いがなく音読することが出来るのであろう。本来、文章をよどみなくすらすらと音読することは非常に快いものである。古文の持つ独特のリズムや言い回しが生徒たちの耳に快く響き、自分もその響きを表現したいと思わせる意味でも暗唱課題は非常に有効であると考える。また、古文には今まで聞いたことのない語句や音の並び方などがあるため、一字一句を注意深く正確に発音しなければならない。例えば、「竹取物語」冒頭の『名をばさぬきのみやつことなむいひける』ではどこまでが名前なのか理解していないとすらすら読めないし、「平家物語、扇的」でも『黒革をどしの』を『黒革を』で切って読んでしまったりする。語句の意味を理解していないとすらすら音読することは出来ない。音読をするときのポイントをしっかりと押さえさせることが比較的やりやすいのである。

通常の授業の音読では、助詞や文末部分などを読み間違えても内容は伝わる場合が多いので、そのままにしてしまったり、何度も読み違えたりする生徒が多い。一字一句をゆるがせにしないためには、その語句の持つ意味や筆者がなぜその語句を使ったのか、他の語句だとどうなるのかなどを丁寧に確かめていくことが重要である。授業の中でポイントになる語句や表現を適宜とらえて、「言葉」に対する意識をとぎます指指導が必要である。

成 果

普段「国語は苦手だ」とあまり意欲を示さない生徒が、暗唱に積極的に取り組む姿勢が見られたことが一番の成果であった。段階を踏んでいくことで、あまり抵抗感なく取り組めるのであろう。また友達と練習し合ってお互いに高め合ったり、クラスメートの発表に触発されたりすることで、「やればできる」という成就感も持たせることができた。今後は、現代文の音読でも例えば「指定時間に一番近く、課題文をミスなく読む」訓練等を行って、音読の力を伸ばしていきたいと考える。

子どもの学習意欲を引き出す資料の活用法

～サブテーマ～

学習内容を「イメージ」させる工夫

川口市立神根東小学校 教諭 岡田 大助



自動車組立工場の疑似体験

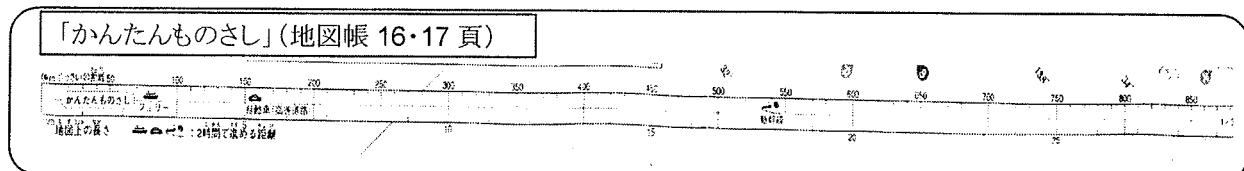
はじめに

社会科の学習内容は、小学校5年生になるとその対象が全国に広がる。今まで地域の身近な事例で学習してきた児童にとっては突然遠い世界の話になってしまい、学習意欲は減退しがちである。学習意欲を高めるためには、子どもたちが学習内容を自分に引き寄せて捉えることが鍵となる。そこで「イメージ」をキーワードに、資料の活用の仕方に工夫を加えた実践を行った。

実践例

(1) 2点間の距離をイメージする：地図帳「かんたんものさし」の活用(水産業、運輸)

捕れたさんまを消費地までどのように運ぶかを調べる学習である。根室から川口までは直線距離で約900kmあるが、その距離を実感させるのに「かんたんものさし」を活用する(帝国書院地図帳14～17頁)。30cmものさしに対応した縮尺で、簡単に2点間の距離が測れる。また、自動車や新幹線などの乗り物だとどのくらいの時間で行けるかということも分かるようになっている。子どもは、「乗り物で何時間」というほうが、距離をイメージできるようである。距離が実感できると、トラックの中のさんまが気になってくる。子どもの「くさってしまうのではないか」というつぶやきから、その時間の課題につなげていった。



① 「かんたんものさし」(地図帳 16・17 頁)
根室と川口の2点間を、30cmものさしで測る。

② 約900kmもはなれている。
「かんたんものさし」に、あてる。

③ 自動車で2時間で走れる距離を確認
車で走り続けて、11時間以上かかる距離だ！
魚がくさってしまう。
さんまの新鮮さを保ちながら、こんなに長い距離を、どのように運ぶのかな。

(2)自動車工場の広さをイメージする：視覚を通した比較(自動車工業)

自動車工場と学校の敷地面積を比べて、その広さを実感する実践である。学校の敷地面積は、工場の広さ236倍の何倍かを児童の目の前で計算してみる。約130倍という結果が出たとする。それだけでも子どもたちは驚くのだが、さらに視覚を通して比べさせることで、広さのイメージをつかませたい。

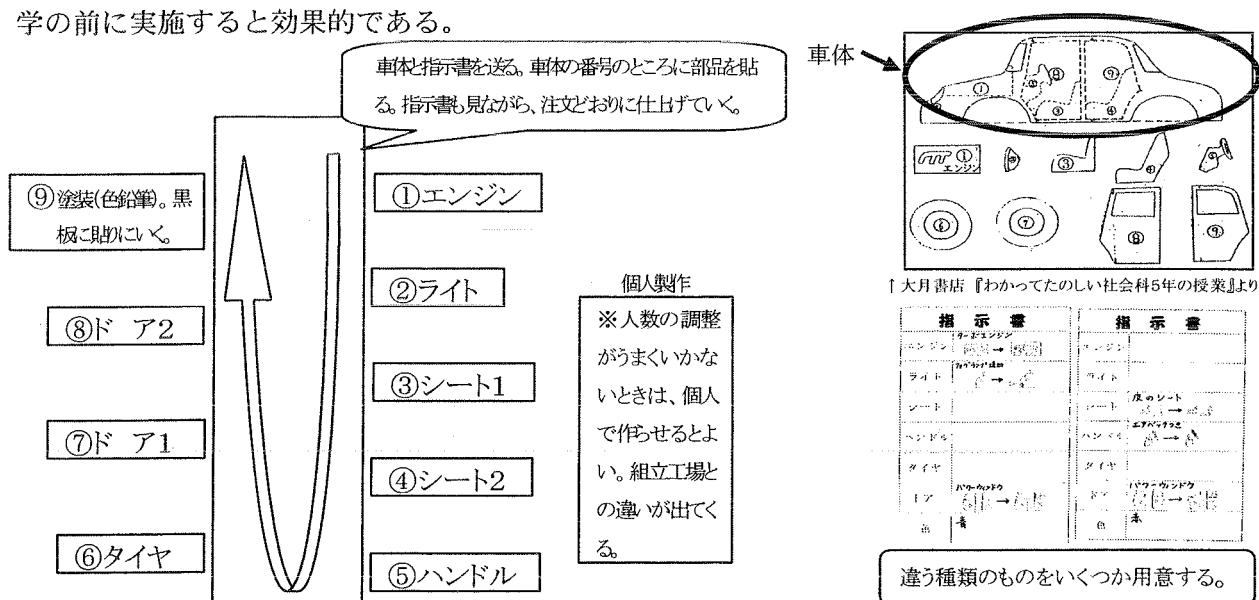


(3)自動車工場の生産速度をイメージする：1分間に約1台！(自動車工業)

教科書に自動車の生産台数が1ヶ月におよそ5万台とある。もう少しイメージしやすい時間の単位として、1分間に何台できるかを計算してみる。すると、1分間に約1台できる計算となる（ただし、これは全行程が1分間でできるという意味ではなく、1分間に約1台ずつ送り出されるという意味である）。工場のイメージをつかんだ子どもたちは、どのように自動車がつくられているのか、具体的に調べようとする。

(4)組立工場で自動車がつくられる様子をイメージする：製造ラインの疑似体験(自動車工業)

組立工場での製造ラインを疑似体験することで、働く人々の様子がイメージでき、工夫や努力に目を向けることができる。グループごとに組立工場をつくり、流れ作業で車を組み立てていく。工場見学の前に実施すると効果的である。



※出たごみは回収し、子どもたちに見せる。自動車工場でのごみを少なくする工夫に目を向けさせるきっかけとなる。

成 果

学習内容に関わる事実をイメージさせる工夫は、主に単元や授業の導入で有効であった。子どもから次時の学習につながる疑問が自然と出て、その後の調べる活動も意欲的であった。子どもが、イメージすることにより事実をとらえたとき、疑問を解決してみたい、追究してみたいという意欲が生まれると考える。

わたしたちのまちや都道府県の名前・特徴・位置・形を地図帳やカルタを使って楽しく学ぼう！

～サブテーマ～

慣れ親しませる地図帳・カルタ活用法

川口市立新郷小学校 教諭 秋山匡俊

ねらい

埼玉県学習状況調査結果によると資料から読み取る力の育成や地図帳の活用を図ることが必要な結果となった。



そこで、「社会科好き」な子を増やし学力向上をさせることをねらい次の2点をもとに実践を行った。

- (1) 地図活用やカルタ競技で社会科への興味関心を高めるだけでなく、集中力が高まり、ゲーム感覚で楽しみながら地名や地域また都道府県・歴史人物の様子をつかめる。
- (2) 地図帳を辞書のようにわからなかつたらすぐに調べてみる、探してみようと言うように、親しませ社会科が好きになるように工夫した。また、関心意欲を高めるだけでなく、イメージをふくらませ、予備知識として県名や特産物が自然に覚えられ学習に生かせるようにした。

実践例

(1)カルタ競技で都道府県の様子(歴史)について知る

5年生の例としては、都道府県の位置や様子がなかなかつかめなかつたり県名を覚えることに対して苦手な児童が多い。そこで学級単位で、絵札や読み札などを分担してカルタづくりの活動を行うことで関心を高めていった。

学習した地域は、その事例をもとに作成させ、内容としてはとりあげた事例や関連した内容でも良い。読み札の例「米作りの盛んな新潟県」「ぶどうの山梨県」というように特産物などの読み札や「自動車生産の多い愛知県」などがあげられる。

絵札については、山梨県の「や」の文字を入れぶどうを描く。また、愛知県では、同じように文字と車の絵を描くなどして制作する。作りながらおよその位置も確認しながら進める。

歴史カルタについては、指導要領にあげられている42人の歴史人物や郷土に関係ある人物を中心に(渋沢栄一等)も入れ絵札を作る。読み札の例として「①源氏物語を作った人・②頭がよく清少納言にはライバル心をもっていた人」「①593年摂政となった人②一度に10人の人の話が聞けた人③遣隋使、小野妹子を送った人」と言うように番号に示した順に読む。絵札については、その人物の顔の絵を描く。(カルタ制作と共に古戦場の位置を地図帳で確かめる活動も含める)

カルタの遊び方については、一つのセットで7人。読み札の読み手一人。札を取る人6人で、読み手が読み始めた札を取り合う。たくさん取れた人が、「歴史カルタ名人」「都道府県カルタ王」等の称号をつけたり、「第1回チャンピオン」と言うようにすることによって意欲を引き出す。また、授業の初めの5分間でどれだけ取れたかを学級内で競うことによって、集中心を養うだけでなくその札の内容について自然と身に付くようになってくる。

三年生については、取り上げる内容として、「川口の形は」…ドーナツ、「植木で有名な」…安行、「郵便局の地図マークは」…〒などをとりあげる。学習したことを生かせるように札を作成させカルタ大会を行わせる。楽しみながら川口市の様子に关心を持たせ特色やよさがわかる。

自分たちの地域に限定した内容にすると学習のまとめとしても活用できる。

カルタの絵札の例



(2) 地図帳片手にぶらり一人旅(指なぞりで確認)

地図に慣れ親しませ活用する方法として、「観光地めぐり関東編」「特産物めぐり」等のタイトルを設定する。旅行ガイドを教師が設定してそれをもとにクイズに答えながら地図をたどらせるようとする。

山陰地方を例とすると「川口駅を出発し羽田空港に向いましょう。」「鳥取空港行きの飛行機に乗ります。空路をだいたいたどって進んで下さい。」となげかけコースをたどらせる活動をさせる。

例:鳥取空港……バスで移動……鳥取砂丘見学(見所を記入しておく) Q 1鳥取砂丘あたりで名物の食べ物は何ですか Q 2このあたりでよく見られる花は何ですか……バスで移動……美保湾へ…… Q 3美保湾がある国立公園の名前は何ですか……。と言うように地図で調べながらコースをたどらせる。

旅行という設定なので、楽しい気持ちを持たせ、行ってみたいという意欲をもたせながら、クイズに答えさせることで、チャレンジして解決しようとする問題解決的な学習にもなる。最後まで到達することにより達成感と共に地名・特産物などが覚えられる。このような活動を朝自習や学習のまとめとして取り入れたりすることによって地図に慣れ親しむことができる。また、学習時に気軽に地図を使って調べようとする気持ちを持たせられる。また、指で地図をたどらせると効果が上がります。

(3) 宝を探せ

設定としては、「先生がとても大切な宝をあるところに埋めました。それを探して下さい。」「鳥取県・岡山県・島根県・広島県から探して下さい。」地図帳を開いて見つけましょうと指示する。

ヒント1…山の近くです。 ヒント2…川が近くに流れています。

ヒント3…近くに鉄道が走っています。 ヒント4…近くにまつたけが取れる場所があります。

ヒント5…高速道路が近くを走っています。 ヒント6…猿をよく見かけます。

ヒントをもとに、クラス全員で活動させます。最初のヒントで見つかった児童が高得点をあげるようにする。(答えはプリントに書き込めるようにする)

この活動では、幅広い地域のヒントから段階を追って目的地が絞り込めるように組んでいく。

答えについては、地名を答えさせる。探すという投げかけで自分の力で解決していくことがこの活動のねらいです。

(4) キティちゃん(ドラえもん)の出身地をさがせ(地図に位置づけしよう!)

どこか旅行に行くと必ず目にするキティちゃん(ドラえもん)ストラップ等がありますがそれを教材化した例です。

キティちゃんストラップの写真や実物をじっくり見せ、出身地はどこかなと問いかける。次に身につけている洋服や持っている特産物などに目をむけさせる。そこでグループで協力して、キティちゃんの持っているものなどを手がかりに地図帳の農林水産業のマークから見つけ白地図に位置づける活動をさせる。調べた結果を全体で発表させて交流する。一つの県で4つ以上あるので、その県のおおよそのイメージがとらえられる。(埼玉県では日本人形他6点)

調べてみると日本全国で販売されており、中には、海外のものもあるそうです。例:大分県の(かぼす)等・歴史人物にかかわるものとして(徳川家康・野口英世)等もありますまた、カタログが販売されているので参考にして下さい。(現在840点販売)

(5) その他について(色々な方法で楽しませよう!)

他には、県名クロスワード・地図のキャラクターを手がかりに土地の様子を探る。各都道府県の形を比べさせたり、ジグソーパズルを作ったりしながら楽しんで学習する方法もあります。

成 果

カルタ競技については、クラス全員が分担して、取り組みその結果みんなで大会を実施することができた。歴史カルタなどは授業時間の導入で復習するという形での取り組みが効果が出てくるが、一つの小単元が終わるたびに、札を増やしていくという楽しみにもつながった。都道府県カルタについては、まず地名がわからない児童が「山梨のぶどうは、このあたりだな」と学習した中からおおよその場所や特産物との結びつけ、イメージできるようになってきた。

地図帳の活用の実践では、見つけ出す楽しみとして、旅行ガイドブック・宝探し(ミッション)のように興味関心を引き寄せられやってみたいという気持ちが盛り上がり、解決した時には、「やった」などの声が上がり満足感が得られた。

キティちゃんをさがせでは必ず土産売り場に置いてあり、地域限定が多い。そのためその地域の特徴が現れており社会科がわりと苦手にしている女子に興味関心が高かった。また、旅行や出かけた先々で情報をつかんできて、みんなにも教えてあげようと話題になることが多くなった。

今回の活動を通して、地図帳を使用する機会が増え親しむようになってきた。

基礎基本が定着し、児童の興味関心を高めるための資料活用法

～サブテーマ～

資料の中にかくされた情報を楽しく探る社会の授業

川口市立領家小学校 教諭 尾田賢一



ねらい

埼玉県学習状況調査結果によると、小学校5学年社会科の全県の平均正答率は75.3%であった。その結果をもとに学力向上を目指すには、特に資料から読み取る力の育成や地図帳の活用を図ることが重要である。学習指導要領の目標(3)にも「・・・各種の具体的資料を効果的に活用し・・・」と述べられている。

資料を活用した指導とは、資料を活用することによって学習効果が高まることが期待されるものである。同時に、「そこ（資料）に答え（学習内容）があり、それが隠れていて見えないのでそれを見るようにする指導」であると考える。

社会の資料には「人、写真・絵画、ビデオ、実物、グラフ、読み物・文章」などがあるが、の中でも、特によく使われるのが「写真」と「グラフ」である。またこの2つは、「そこにあるが見えない」が顕著である。

のことから、資料の読み取らせ方に工夫することで社会好きの児童を育てるために、以下の実践をおこなった。

実践例

(1) 絵や写真資料の読み取らせ方 4つの工夫

①「分かったこと・気づいたこと・思ったこと、をできるだけたくさんノートに書きなさい。」「どんなことでもいいです。たくさん書くことが大切です。」と言っておく。（はじめは質より量を重視する。）

○単元のはじめに、1つの資料から「分かったこと・気づいたこと・思ったこと」をたくさん出させることで単元についての問題意識を高めるとともに、単元の学習問題をつくるきっかけとする。

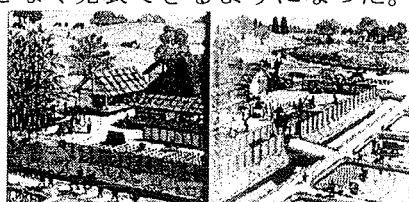
②資料から読み取れた内容をノートに書く（箇条書き）

○発問をしていきなり発表させるよりも、ノートに書かせてから発表させることで、社会に苦手意識を持っている児童でもあまり負担を感じることなく発表できるようになった。

○また箇条書きにしてそのままの形で発表させることで、簡潔に意見を述べができるようになった。

○番号をふって箇条書きをしていくことで、自分がどれだけ多く意見を出せたか意識でき、読み取ろうとする意欲の向上につながった。

○机間指導を行い、赤ペンでチェックをしてあげることによって安心して発表に取り組めた。



③目標を数値で示して意欲を持たせる

○「この写真1枚からたくさんの情報を読み取ろう。○年生だから□個以上読み取ろう！」などのように、数値目標を示すことで、児童は多くの意見を出そうと資料をより細かいところまで見るようになり、読み取りの意欲が向上するとともに、これまでの知識と結

びつけて考えることができるようになり、読み取りの力が高まった。

- ④意見にレベルを設ける（レベル1, レベル2, レベル3）
ことによって更に読み取りの意欲向上を図る。

☆レベル1・・・見たものをそのまま言った意見

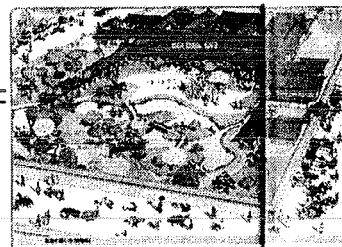
(例)「～がある。」「～がいる。」

☆レベル2・・・疑問や自分なりの考え（予想）

(例)「～はなんだろうか。」「～は多分・・・だと思う。
「～がある（いる）ことから、～なのではないか。」

☆レベル3・・・これまでの学習や他の資料などと関連させた考え

(例)「～は・・・だから○○だと思う。
「～の時は・・・だったから、これも○○だと思う。」



- 意見にレベルをもうけることで、これまでの知識と結びつけて、より深く資料を読み取ることのできる児童が増えてきた。ただ単に資料を「見る」ということから「読み取る」ということができるようになった。

(2) グラフの読み取らせ方の工夫

- ①題名、単位、縦軸・横軸は何を表しているか、単位、出典を必ず確認する。

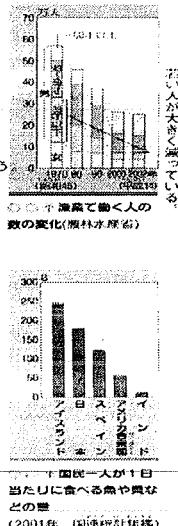
「題名はどこですか。」

「縦軸は何を表していますか。」（単位）

「横軸は何を表していますか。」（項目）

「単位は何ですか。」

「出典はどこですか。」（誰がつくったグラフなのか、信用性）



- 何の資料でどんなことが書かれているのかということを理解できていない児童が多いので、グラフが出てくるたびに確認した。

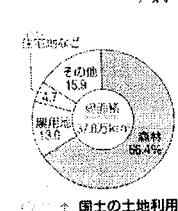
②棒グラフ、円（帯）グラフを読み取らせる場合の指示

「大きい順に5つ選んでノートに書きなさい。」

「ベスト5をノートに書きなさい。」

（棒グラフ、円グラフの場合は、大小を比較するのに適しているため）

- この活動をさせると必ず「その他」を順位に入れる児童がいるので、「その他」は割合が多くても順位には入らないということを指導した。



③折れ線グラフの場合の指示

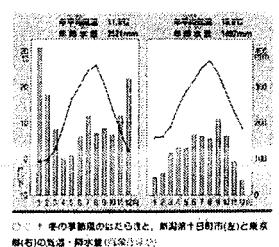
「増えている」か「減っている」か「変わらない」のかを見つける。

「全体的に見ると、増えていますか、減っていますか？」

「一番多い（少ない）ところはどこですか。」

「○年は、□年のおよそ何倍になっていますか。」

「大きく変化しているところはどこですか。」



- 児童に斜め線を引かせることにより、大体のグラフの形を理解させる。

- 以上のような指導を積み重ねた上で、「このグラフを見て思ったこと考えたこと、分かったことをノートに書きなさい」と指示すると、はじめにグラフの読み取り方についての確認をしているので、何も書けない子はほとんどなくなった。

成 果

以上のような取り組みを年度のはじめから続けることによって、社会の学習に苦手意識を持つ児童でも「分かった」「できた」という気持ちを持つことができるようになり、意欲的に社会の学習に取り組むことができるようになってきた。社会科の学習に欠かせない写真やグラフなどの資料の読み取りの基礎・基本は、普段の授業の中で楽しみながら毎時間少しづつ扱っていくことで身に付いていくことを実感した。

生徒の興味・関心を高め学力を向上させるための授業の工夫

～サブテーマ～

生徒が学びたくなる社会科の授業



川口市立上青木中学校 教諭 鈴木 幸吉

はじめに

生徒の興味・関心を高め、学力を向上させるためには、生徒の授業に対する集中力を高めることが重要である。学習に対して関心、集中力を高めることは、学習内容の理解を深めることにつながるため、授業の際の教師の工夫はとても重要なことであると考えている。

例えば社会科の授業において、できる限り実物を活用することも、その工夫の一つである。実物がなければ、実物に近い教材を授業の中で活用することで、生徒の興味・関心を高め、集中力を高めていく。そのためには日頃から、教材になりそうなものを収集しておくことが重要である。つまり、素材は社会生活の中にもたくさんあり、それをいかに社会科の教材として教材化していくかは、教師の工夫にかかっている。日頃から生徒の実態を把握し、教材について意識していくことで、教材化が図られる。実物の収集等には、たいへんな労力を必要とするが、その努力（教師の「やる気」）は必ず生徒の「やる気」を喚起するものと思う。

ねらい

社会科の楽しさを教え、「社会科好き」の生徒を増やし、社会科の学力を向上させることが第一のねらいである。そのため生徒の興味・関心を高め、思考を広げ、理解を深められそうな手立てを常に意識し、実践していく。

実践例

(1) 実物(実物に近いものも含む)を活用した授業について

例)「漢倭奴国王」の金印のレプリカを使用して

- 導入の段階で提示することで、実際に手に触れさせたり、朱肉を使って押させたりする活動を通して、興味・関心を高め、調べ活動を意欲的にさせることができる。
- 提示の仕方も生徒の実態に応じて、いきなり直面させて関心を高める場合と金印の大きさ、重さ、形、色などの話し合いをして問題意識を高めた上で提示する場合などが考えられる。
- 追究や検証の段階で提示することで、認識を深め、知識の定着等をより確実なものにすることができます。

(2) ビデオを活用した授業について

社会科の授業では、理解を図る上で映像も重要な役割を果たす。授業の中でビデオを活用した方がよいと思われる場面では、ビデオを活用して生徒の集中力を高め、理解を深めていくようとする。

【効果的なビデオ視聴の仕方】

- ①長時間見せるのではなく、映像による提示が効果的であると思われる場面で、必要な部分だけを視聴する。
- ②単元や本時の導入時の視聴は、生徒の興味・関心を高め、学習意欲を高め、その後の調べ活動等に効果的である。
- ③調べ活動の追究段階での視聴は、幅広い視野からの思考を行わせていく上で効果的である。

④学習をふりかえる際の視聴は、知識の定着を図り、理解を深める上で効果的である。

*ビデオ教材は、社会科資料室等に保管し共有化を図ると、全校での学力向上に効果的である。

(3)歴史新聞等の作成について

歴史新聞等を作成することは、歴史の学び方を学んだり、調べる力や表現する力を高めたりすることに結びつく。

【歴史新聞作成にあたって】

①5W1Hを意識して調べ、わかりやすくまとめる。

(Whenいつ) (Whereどこで) (Whoだれが) (What何を) (Whyなぜ)
(Howどのように)

②紙面構成の計画を立てる。内容、掲載する資料、見出しの大きさや位置などを決めていく。

③調べる際に自分が活用した資料の中で重要なものについては、地図や絵、写真、グラフ、年表等を新聞の中に入れるようにする。

④人物のエピソード（逸話）コーナーなども設けるとよい。

人物のエピソードを知ることによって、人物に親しみを感じ、社会科・歴史が好きになるきっかけとなることが多い。

⑤見出しが新聞にとって重要な要素なので、内容面から要点をつかませ工夫させていく。

例）「徳川家康（61）江戸に幕府を開く！室町幕府滅亡（1573年）以来30年ぶり」

⑥社説を必ず入れる。社説は新聞にとって重要な要素であり、調べて感じたことや自分の考えをしっかり書き込ませる。

⑦作成した新聞は互いに見合って評価し合い、次の新聞作成・表現活動に生かせるようにする。

(4)フラッシュカードの活用について

フラッシュカードは、重要語句や基本的な内容を生徒に確実に理解させていく上で重要である。授業で使いやすいように、生徒の実態、教材、授業場面等に応じて工夫して作成する。

【作成上の留意点】

①ケント紙や画用紙、板目表紙等の厚めの紙を利用するとよい。（項目に応じ色を決めておく）

②文字は太めにし、語句はポイントを絞って、強く印象づける。（項目に応じ色を決めておく）

③黒板に容易に貼れ、移動できるよう、カードの裏には磁石のシートを貼り付ける。

【活用の効果】

①板書の時間を短縮できる。

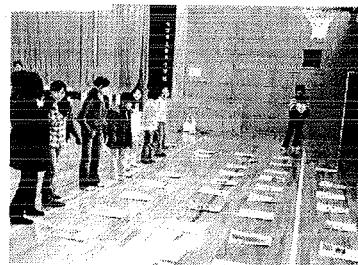
②黒板の中でカードの移動が容易にできる。

③授業の中でアクセントになり強調することができる。

④生徒が注目しやすく、授業に集中しやすくなる。

⑤どこがポイントなのかが、わかりやすくなる。

*作成したものは社会科資料室等に保管し、共有化を図る。



(5)板書の工夫について

①板書の内容は、重要語句を書くばかりでなく、資料掲示に使ったり、生徒の発言などを書き入れたりして、学習を進める上で効果的に活用する。

②板書の量は、多すぎると生徒の負担にもなるので、1時間の授業で黒板一面の板書で収まるように板書計画を立てる。黒板を消さずにすめば、本時の学習のふりかえりにも活用できる。

③難しい漢字には、必ず《ふりがな》を色のチョークで書く。

読み方がわからない漢字があると、そこでつまずいて学習意欲が低下することになる。

④重要語句をわかりやすく板書する。

例）〈等高線〉、〈廃藩置県〉などは、「等」「高」「線」、「廢」「藩」「置」「県」の文字は赤〇で囲む。生徒は重要語句の内容が《文字通り》であることに気がつく。

⑤数時間に渡る学習では、模造紙に書き込むことで、次時にも活用でき、学習の足跡が残せる。

成 果

日々の授業を常に工夫し、「むずかしいことを、やさしく、わかりやすく」教えるよう心がけて実践していくことで、生徒は「わかる」ようになって、社会科が好きになり、学習意欲も高まっている。「社会科の授業の時間が来るのが楽しみだ」と言ってくれる生徒も増えている。

社会 中学校 地理的・歴史的分野の学習

人物名、基礎基本の用語をカルタ等を通して楽しく学ぼう！

～サブテーマ～

生徒の学習意欲や思考力を高める学習活動の工夫

川口市立西中学校 教諭 小林智之



はじめに

歴史学習も後半になると、用語自体や事象の内容が複雑、難解になっていく。楽しみながら、自然に基礎・基本を身につけられないだろうか。また、一方で地図等の資料活用の能力の育成が課題となっている。そこで次のような実践を考えてみた。

ねらい

基礎・基本の習得には反復学習はつきものである。そこで反復して暗記にも結びつく、カルタの使用を考えてみた。生徒が授業で主体的に活動し、楽しみながら基礎が身に付ければというねらいである。また、それだけでは弱いので、思考力を深めたり、深く真実を追究するという意味で、ランキングや関連図の手法なども考えてみた。生徒の主体的な活動を取り入れることによって授業の活性化を図ることができる。

実践例

(1)カルタを取り入れた単元のまとめ

歴史人物名、重要な用語などをカルタにする。

①単元の学習を振り返り、カルタの文言を考える。その際、とりふだの頭に来る部分は、最後に持ってくるようにする。

【例】ドイツに学び 憲法作った い伊藤博文

財政の 基礎を固めた ち地租改正

製糸紡績 女工がさえた さ産業革命

つくれ国会 自由民権 い板垣退助

カルタの上の部分を読むと、取り札が連想できるようになります。なお、あいうえお順には特にこだわらず、枚数も特にこだわらない。

②できた作品のチェック

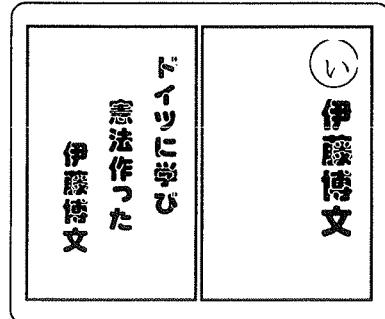
下書きを点検し、評価し、良い作品は用紙を渡し清書するよう指示する。読み札にはワンポイントで、イラスト等を入れさせる。できた作品を集約して一覧表にまとめる。生徒の作品の一覧表が事前に渡されるので、家庭学習等で理解していく。

③競技大会

生徒の作成したカルタを用いて競技大会を行う。最初は数名の班対抗で行う。上の句の部分を読んだだけで、下の語句をどのくらい連想できるかが、勝負の分かれ目になり、そこが学習してきた力が問われる所となる。取った枚数を競い合う。最後に振り返りの時間を取り、今日の学習を振り返り、カードに自己評価を記入する。

④意義と成果

歴史学習も近現代史になると、人物も多く登場し、また難しい用語も多く使用されることとなる。例えば、明治維新の改革の「版籍奉還」等の熟語がそうである。楽しく学習し、かつ基礎・基本の定着をはかるためには、このような試みも有効かと考えられる。また、この後の活用としては、歴史学習の総復習として、再度活用したり、小テストをして知識理解の促進に活用したりすることができる。

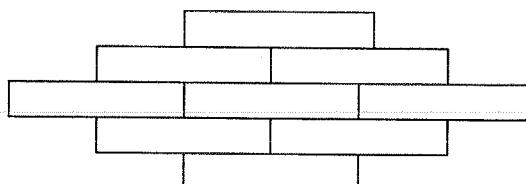


(2) 明治維新ダイヤモンドランク

明治維新の諸政策、諸改革の中で、一番重要なものはどれか、ランキングしてみる。

- | | | | | | |
|-------|---------|--------|-------|-----|------|
| ・廃藩置県 | ・殖産興業 | ・文明開化 | ・地租改正 | ・学制 | ・徴兵令 |
| ・四民平等 | ・北海道の開拓 | ・岩倉使節団 | | | |

- ①個人で考える。
- ②班で相談する。
- ③班の意見を発表する。
- ④他の班に意見や質問をする。
- ⑤振り返り（以上1時間扱い）

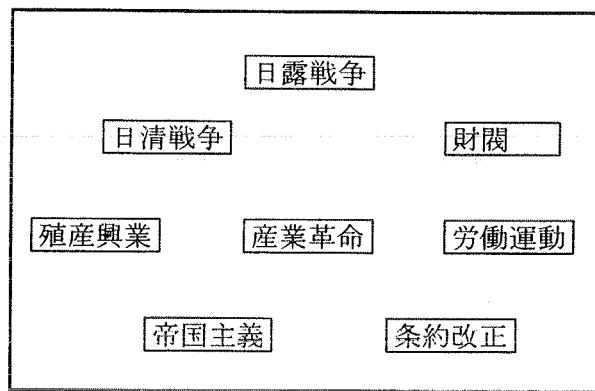


思考の深まりを期待している授業である。班での話し合いにより、意見が深まりやすい。個人でも班では気づかなかった視点が討議される。例えばある班は下位にあげた「廃藩置県」が、それまでの地方分権的な日本の体制を、天皇中心の中央集権的なまとまりのある国にしたという点で大きな意味を持つ、などの意見がでたり、本質を浮かびあがらせることができる。

(3) 思考の関連図を活用した近代国家の形成

思考の関連図を活用し、それぞれの項目を→で結び、その関連を考えさせる。例えば、産業革命から日露戦争へと→を結び、産業革命によって経済的に成長したことが、戦争への原動力となつたなど。

- ①個人で考え、ワークシートへ記入。
- ②班で話し合い。
- ③全体の場で発表。
- ④意見交換
- ⑤振り返り（以上1時間扱い）



思考の深まりを期待しているのはもちろんのこと、「条約改正」など基本的用語を繰り返し使用する中での、基礎基本の定着もねらっている。

(4) 描いてみよう世界や日本の「おもしろ地図」

地理学習の第3編の「世界から見た日本」のまとめの課題学習として、「おもしろ地図」の作成を行う。手書きの日本地図、世界地図に次のようなテーマで情報を盛り込んで、自分なりの地図を作成する。

- 【例】
- ・日本の人口分布図と地形
 - ・ここが日本の過疎地域
 - ・狭い日本の土地利用
 - ・工業地帯と高速道路、空港
 - ・日本の鉄道マップ
 - ・農業特産物マップ
 - ・世界の穀物自給率
 - ・世界の平均寿命
 - ・世界のエネルギー消費量
 - ・世界の一人あたりGDP
 - ・世界のコンビニ店舗数
 - ・日本の海外旅行者数
 - ・世界のインターネット普及率
 - ・私の世界旅行など

参考 教科書、地図帳、資料集、「今がわかる時代がわかる世界地図」等

- ①まず、今までの学習で興味を持ったことを中心にテーマを選ぶ。
- ②アウトラインとなる白地図を手書きで描く。
- ③資料を参考に、地図に情報をうまくまとめてみる。
- ④班で発表会を行う。（以上4時間扱い）

個人の興味・関心を生かし、自分らしさを發揮し地図にまとめる力を養いたい。手書きの地図の中に様々な情報を書き込み、あるいは色塗りをし、人に訴えるような内容のある地図づくりを心がけさせたい。

成 果

基礎・基本の学習は反復学習がつきもので、単調な学習になりがちであるが、カルタを活用することによって、楽しみながら、重要語句が自然と身に付くようにすることができるようになった。また、自分が作成した札が使用されることに加え、競技自体の楽しさがあるゆえ、活気ある授業となり、覚えてこようという意欲も高まった。一方、ランキングや思考の関連図の活用は、生徒の思考力を高め、話し合い活動を活性化することにつながった。地図づくりでは、自分なりの地図を工夫して作成することによって、資料活用の能力が少しでも高まったと思われる。

算数 小学校1年生 単元「たしざん」「ひきざん」

算数セットで楽しく練習しよう！

～サブテーマ～

算数セットの効果的な活用法

川口市立青木中央小学校 教諭 渡邊 恵



はじめに

1年生の「たしざん」「ひきざん」の学習では、これまでに半具体物のブロックやおはじきを使って、数の操作を視覚化して指導してきた。

特に導入時の計算の仕方を考える授業では、被加数と加数を色別に分けたり、10のまとまりが一目で見えたりするなど、半具体物は指導に不可欠な道具になっている。半具体物の操作による求答から、次第に念頭操作へと移行していくが、計算の習熟時には、ドリルやプリントを使っての繰り返し練習が多い。そこで、単調になりがちな習熟の場を算数セットを活用することで、児童が主体的に取り組めるようにしたい。

ねらい

○算数セットを使った習熟を目的とした活動を工夫し、児童の実態と関連を図ることで児童の主体的な活動を促し、算数への意欲を伸ばす。

実践例

<算数セットを使ったゲーム例>

☆ここに紹介するゲームは、計算の特性に合わせて、ルールなどを調整すると全ての計算で活用できます。

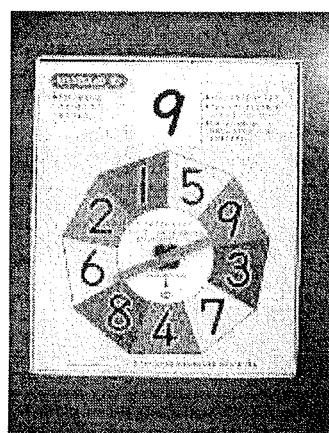
○ルーレット計算

準備：ルーレット板、数カード

例) 加数分解のたしざん

- ①ルーレット板に数カード（7～9）を置く。
- ②数カードとルーレットを回してでた数をたす。

*数の片方を固定して、練習ができる。



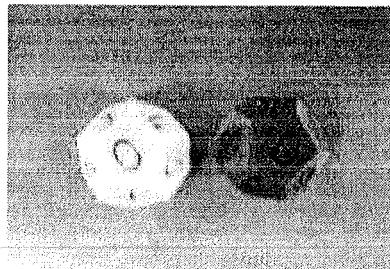
○サイコロ計算

準備：サイコロ2つ

例) 繰り下がりのあるひきざん

- ①0～10の目のさいころ2個（赤・黄）を振る。
- ②赤の数に10をたした数から黄色の数をひく。
「1口一黄」…口は赤の数

- 例)・1位数同士のたしざん→0~5の目のサイコロ2個使用
 ・1位数同士のひきざん→0~10の目のサイコロ2個使用
 　「大きい数-小さい数」
 ・繰り上がりのあるたしざん→0~10の目のサイコロ2個使用
 　「赤+黄」
 *サイコロを振ってでた数で計算練習をする。



○bingoゲーム

準備：ルーレット（計算カード）

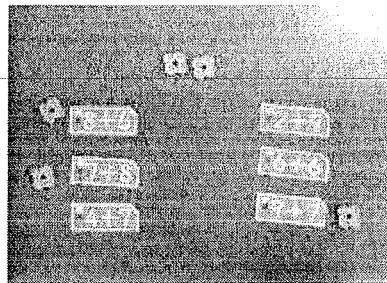
- 例)「9十口」のあるたしざん
 ①ノートにたて3、よこ3（ 3×3 ）のマスをひく。
 ②真ん中のマスを赤でぬり、回りのマスに11~18を書く。
 ③ルーレットたしざん「9十口」で計算をし、答えを塗る。
 その後、答えを確認する。
 ④5回繰り返す。

- *教師とともに一斉に取り組む場合は、教師が計算を提示する。
 *「8十口」…マスに書く数10~17
 「7十口」…マスに書く数9~16
 *マスに書く数を調整すれば、他の計算でもできる。
 *実態によっては 5×5 にマスを増やしても楽しい。

○大きさくらべ

準備：計算カード

- 例) 繰り上がりのあるたしざん
 ①対戦する数だけおはじきを用意する。（2~3人組）
 ②計算カードを同時に出し、答えの大きい人はおはじきを一つもらう。
 ③対戦終了時におはじきが多い人が勝ち。



*対戦数、引き分け時のルール（もう一度勝負、じゃんけんなど）をペアで相談し、決めさせると楽しい。

○計算広場（なかまあつめ）

準備：計算カード、なかまあつめシート

- 例) 1位数同士のたしざん
 ①なかまあつめシートを広げる。
 ②計算カードをよくきてから、計算する
 ③同じ答えどうしを集め、並べる。



*1位数同士のたしざんなら、10になるカードの枚数が一番多く、2になるカードは、1枚しかないことなどに気付かせるとよい。

○カードめぐり

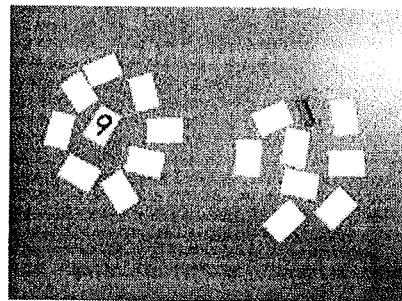
準備：数カード

例) 1位数同士のひきざん（10の補数）

①各々1～9までのカードを裏返す。

（となりどうし2人組で対戦する。）

②自分のカード1枚、相手のカードを1枚めぐり、2枚の和が10になるように神経衰弱をする。



*繰り上がりのあるたしざんの場合は、別に数カード11～18を用意して、めくってでた数になるように、神経衰弱をするなど調整するといい。

○計算すごろく

準備：すごろく板、さいころ2つ

①すごろく板を用意し、サイコロ計算をして、でた目の和や差だけ進む。

②答えが10以上になる計算など数が大きくなるときは、ゴールを往復したり、別のすごろくをつなげたりして工夫すると楽しい。



○カードかるた

準備：計算カード

例) 繰り上がりのあるたしざん

①計算カードを式を上にして、机の上に広げる。

②教師の提示した数が答えになる式のカードを拾う。

（時間内）…実態に合わせて

③時間内に拾った数を確認する。

*計算カードは、その答えになるカード数が違うので、答えによって、拾う時間を調整するようにする。



＜算数セットを使用したゲーム（例）と児童の実態＞

*児童の実態と活用場面例は次ページ参照

コース	A	B	C	D	E
具体的な児童の実態 ゲーム例	計算に苦手意識が強く、意欲にムラがある児童	計算が苦手で時間がかかり、もう少し習熟したい児童	計算が少し苦手でもっと計算に取り組みたい児童	計算が得意でもっと計算に取り組みたい児童	計算が得意で文章題に取り組みたい児童
ルーレット計算	○	○			
サイコロ計算	○	○	○		
bingoゲーム	○	○	○		
大きさ比べ	○	○	○		
カードめぐり	○	○	○	○	○
計算広場(仲間あつめ)		○	○	○(計時)	○(計時)
計算すごろく			○	○	○
カードかるた				○	○

*空欄は不適当なのではなく、時間確保や基本のルールを実態に応じて変更するなどの配慮や工夫をすれば、十分に楽しく活動できる。

*隣同士や班等、チームを組んで取り組むといい。

<具体的な実践例：「ひきざん（習熟度別コース学習の場で）」>

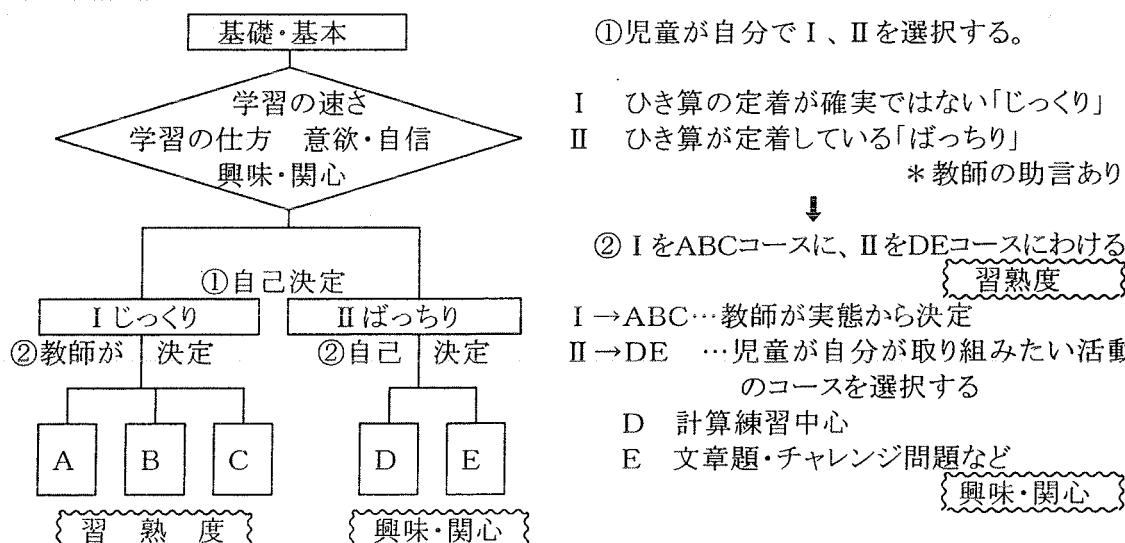
①コースの設定について

○単元末の1時間で興味関心を加味した習熟度別コース学習を実施した。児童の実態にあったゲームを取り入れたり、取り組むプリントの問題数を調整したりして、児童の主体的な学習活動を意図した。

I もう少し練習したいなあ (必要に応じて操作をながら)			II ひき算ばっちりできるよ! (操作なしで計算ができる)	
A キタキツネ 計算をして動物 をみつけよう。	B ペンギン ひき算を得意にし よう。	C トナカイ どんどん計算 しよう。	D アザラシ 思いっきり計算し よう。	E ラッコ 文章問題にチャレ ンジしよう。
・ルーレットひき算 (ひく数を固定し て計算する)→ ・プリント数枚(1枚 の問題数を少なく する)	・ひき算ビンゴ ↓ ・プリント数枚 (10題)	・ひき算広場 (計算カードを答 えごとに並べる) ↓ ・計算プリント数枚 (10題)	・大きさ比べ (計算カード使用) ↓ ・計算プリント数枚 (20題)	・カードかるた (計算カード使用) ・ひき算のお話づくり ↓ ・つくった問題を解 きあう。
計算に苦手意識 が強く、意欲にム ラがある児童	計算が苦手で時間 がかかり、もう少し 習熟したい児童	計算が少し苦手で もっと計算に取り組 みたい児童	計算が得意でもつ と計算に取り組み みたい児童	計算が得意で文章 題に取り組みたい 児童
・シールなどを活用して、計算に取り組む 意欲を喚起するようにする。 ・計算を解く量や速さではなく、自分で 確実にできたことを認め、自信をも たせるようにする。		・シールなどを活用して、自分の取り組みの結果や成果が 目に見えるようにする。 ・活動に取り組む前に自分のめあてを決めるようにし、終了時に めあてや取り組みについて振り返るようにする。		

②コースの決定について

○習熟度別学習では、児童が自分に合うコースを選択しているかが重要になる。低学年でどこまで的確なコース選択ができるのかが懸念されるが、次のような2段階を経て、コース決定を行うことで、より自分に合うコースで活動できると考えた。



成 果

- 一人一人の実態に応じた学習活動が展開され、どのコースの児童も集中力がとぎれることなく、主体的な練習・習熟ができた。
- 身近な算数セットを意図的に活用した。児童は楽しみながら取り組むことができた。
- 算数への意欲が高まり、算数が好きと言う児童が増えた。

授業の“理解度up”を図り、基礎基本を身に付ける

川口市立東中学校 教諭 浅井勝之

はじめに

今年度、3学年を2人で受け持つことになり、もう一人の先生から、「授業の最後に小テストをやりませんか?」と提案された。

本校は、集中力に欠けたり、すぐにあきらめてしまう傾向の生徒が多い。また、家庭学習が身についておらず、次の授業の時に前時の内容を覚えていない生徒もいる。

そのような状況なので、少しでも学習内容が身につくことを願い、その日に学習した内容を中心に小テストを実施することにした。生徒には、最初の授業の時に説明した。

ねらい

小テストの目的は、

- ① 今日の授業が理解できたかを知る。(生徒側)
- ② 自分で問題を解くことに慣れる。(生徒側)
- ③ 授業に集中させる…授業を聞いていないとテストができない(生徒側)
- ④ 理解できていない所をつかむ。(教師側)

実践例

(1) 小テストについて

小テストは、次の授業の内容に合わせて用意する。用紙サイズは、問題量と後で生徒がファイルすることを考え、B5とした。

点数は100点満点とし、問題数は5題～10題で、時間のかかる問題の場合は少なくしている。配点もそれに合わせて1題10点の場合や20点の場合もある。

学習内容や問題内容により、授業の終了5～10前に学習を終了し、小テストを配布し、取り組ませる。

授業終了のチャイムで、小テストを回収する。

※ 小テストを実施するにあたって、教科書やノートを見てもよいことにしている。

3年 数学小テスト ()組()番 氏名() No.38.

問1. 関数 $y = x^2$ について、xの値が、次のように増加するときの変化の割合を求めなさい。
(各10点)

(1) 1から3まで

(2) -5から-2まで

問2. 次の関数について、xの値が3から5まで増加するときの変化の割合を求めなさい。
(各20点)

(1) $y = 3x^2$

(2) $y = -3x^2$

問3. 次の各問いに答へなさい。(各10点)

(1) $2 \times (-3) \div 6$ を計算しなさい。

(2) $\sqrt{8} - \sqrt{18}$ を計算しなさい。

(3) $x = \sqrt{3} + 1$ のとき、 $x^2 - 2x + 1$ の値を求めなさい。

(4) 2次方程式 $(x - 6)^2 = 7$ を解きなさい。

$x =$

点

(2) 解答について

採点は、担当教師が行い、次時の開始前に数学係を通して返却している。

解答・解説については、授業を進める関係で時間をとってはいない。採点して気になることや説明不足等を感じた場合、あるいは生徒から質問があった場合は、授業開始時に行うようにしている。

ただ、問題をやり放しでは解き方を間違えた生徒にとって何がいけなかつたかわからないままになってしまう。そこで、次の小テストの裏に前回の解答を印刷して後日定期テスト等で見直しをしたときに復習できるようにした。

別紙プリントで解答を用意することも考えたが、すべての生徒がやり方等の解答を必要とするわけではない。用紙のムダになる。かといって何もなしでは意欲のある生徒を切り捨ててしまうことになると思い、このような方法になった。

3年 数学小テスト () 組 () 番 氏名 () №37.

問1. 関数 $y = x^2$ ($-2 \leq x \leq 1$) について、y の変域を求めなさい。(20点)

$x = -2$ のとき、 $y = (-2)^2 = 4$
 $x = 1$ のとき、 $y = 1^2 = 1$
 $x = 0$ のとき、 $y = 0^2 = 0$ $0 \leq x \leq 4$

問2. 関数 $y = 2x^2$ ($-3 \leq x \leq 2$) について、y の変域を求めなさい。(20点)

$x = -3$ のとき、 $y = 2 \times (-3)^2 = 18$
 $x = 2$ のとき、 $y = 2 \times 2^2 = 8$
 $x = 0$ のとき、 $y = 2 \times 0^2 = 0$ $0 \leq x \leq 18$

問3. 関数 $y = -3x^2$ ($-1 \leq x \leq 3$) について、y の変域を求めなさい。(20点)

$x = -1$ のとき、 $y = -3 \times (-1)^2 = -3$
 $x = 3$ のとき、 $y = -3 \times 3^2 = -27$
 $x = 0$ のとき、 $y = -3 \times 0^2 = 0$ $-27 \leq y \leq 0$

問4. 次の各問いに答えなさい。(各10点)

(1) $3 - 2 \times (-5)$ を計算しなさい。
 $3 - 2 \times (-5) = 3 + 10 = 13$ 13

(2) $3\sqrt{2} + \sqrt{8}$ を計算しなさい。
 $3\sqrt{2} + \sqrt{8} = 3\sqrt{2} + 2\sqrt{2} = 5\sqrt{2}$ $5\sqrt{2}$

(3) $x = \sqrt{5} - 1$ のとき、 $x^2 + 2x + 1$ の値を求めなさい。
 $x^2 + 2x + 1 = (x+1)^2 = (\sqrt{5} - 1 + 1)^2 = (\sqrt{5})^2 = 5$ 5

(4) 2次方程式 $(x+2)^2 = 3$ を解きなさい。
 $(x+2)^2 = 3$
 $x+2 = \pm\sqrt{3}$
 $x = -2 \pm \sqrt{3}$ 点

No.38の小テストの裏にNo.37の解答

(3) 得点の記録について

小テストの得点は、生徒の自己評価カード欄を設け、生徒自身に記録させている。これは生徒自身が自分で記録し得点の推移を見ることで、意欲を高めることができる。また、教師の負担を少しでも減らすことができる。

(4) 問題点について

問題点としては、教師の採点時間の確保である。私の場合、どうしても部活が終わってからになってしまう。教師の採点時間確保が難しい場合は、授業中に採点時間を確保し、生徒同士で交換させて採点させてもよいであろう。

また、授業内容が難しかったり、三平方の定理など基本的なことは1つで、いろいろな図形に応用して反復的に学習する場合など、問題作成に行き詰まることがある。その場合は、その日の授業内容にこだわらず、計算問題等の復習も混ぜるようにした。

成 果

授業の最後に小テストを行うことのよさとして、初めにあげたねらいと重なる点もあるが、改めて次のことがわかった。

- ・ 5~10分間、生徒自身が集中して問題に取り組むことにより、集中力が身につく。

授業中、演習問題等取り組むが、その場合問題数が多くて3問程度である。力のある生徒ならすぐできてしまう。難しい問題だと、苦手な生徒にとっては手がつかずにあきらめてしまう。しかし、毎回、決まった時間で5~10題のその日の内容の小テストを行うと、苦手な生徒も思い出しながら取り組めるし、力のある生徒も満点を取ろうと真剣に取り組んでいる。50分間教師や友達の説明を集中して聞くことが難しい生徒にとっては、実のある10分間である。集中力のない生徒でも10分程度なら集中できる。

- ・ その日の学習内容の理解度が、生徒も先生もつかめる。
- ・ 基礎学力が身につく。

数学 中学校3年生 単元「三平方の定理」

三平方の定理の導入

～サブテーマ～

パズルに挑戦

川口市立東中学校 教諭 浅井勝之

はじめに

一般的な三角形では、2辺の長さがわかつても、残りの辺の長さは中学生の学習範囲では求めることができない。小学校で三角形を学習したときから、「2辺の長さを加えれば、残りの1辺の長さを求めることができるのではないか」という思いを多くの生徒は持つものである。しかし、そうはならないことを実測などで知り、長さを求めるなどをあきらめてきていた。しかし、「三平方の定理」は、直角三角形という特別な場合においてであるが、そんな気持ちを解決してくれる単元である。

ねらい

この単元は、上記のことからもわかるとおり、生徒にとって興味深い内容である。しかし、学習していく上で、直角三角形の3辺の関係について、「 $a^2 + b^2 = c^2$ 」の数字の関係にのみ注目し、 a^2 , b^2 , c^2 が持つ意味を生徒はすぐに忘れてしまいがちである。そこで、 a^2 , b^2 , c^2 が面積の関係に結びつくことを印象づけるためと、生徒がより関心を持って取り組むようにパズルを取り入れて導入課題とした。

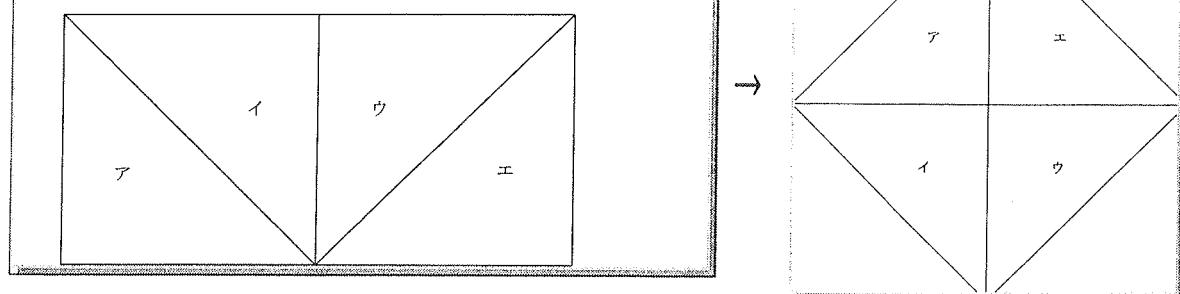
実践例

(1)準備について

あらかじめ授業の準備として、ハサミを用意させておく。B5の紙に、図のような同じ大きさの正方形2枚の組（パズル①）と、大きさの違う正方形の組（パズル②）を2つを用意する。パズル①は、正方形2つを1つの正方形に組み合わせる意味を理解させる意味で行う。パズル②を2つ用意するのは、1つを切ってバラバラになったとき、初めの状態がわからなくなってしまうためと、2つの正方形がどのように1つの正方形に組み合はされたかを、照らし合わせて最後に確認できるようにするためである。したがってパズル②の1つは、あらかじめ切り取らないように注意しておく必要がある。

(2)パズル①について

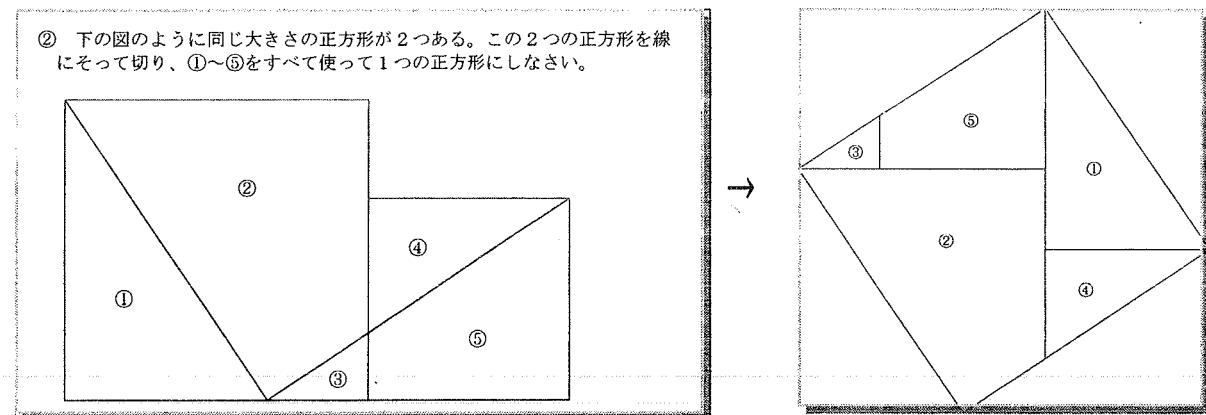
- ① 下の図のように同じ大きさの正方形が2つある。この2つの正方形を線にそって切り、ア・イ・ウ・エをすべて使って1つの正方形にしなさい。



パズル①は、生徒によっては切らずに見ただけで、どのように組み合わせるかわかる。また、実際に切り取って活動することによって理解する生徒もいる。どちらにしても、実際に活動し、2つの正方形から1つの正方形になることを理解し、「自分でもできる」という喜びを味わせることができる。そして次のパズル②も『やってやろう』という気にさせることができ。

(3)パズル②について

- ② 下の図のように同じ大きさの正方形が2つある。この2つの正方形を線にそって切り、①～⑤をすべて使って1つの正方形にしなさい。



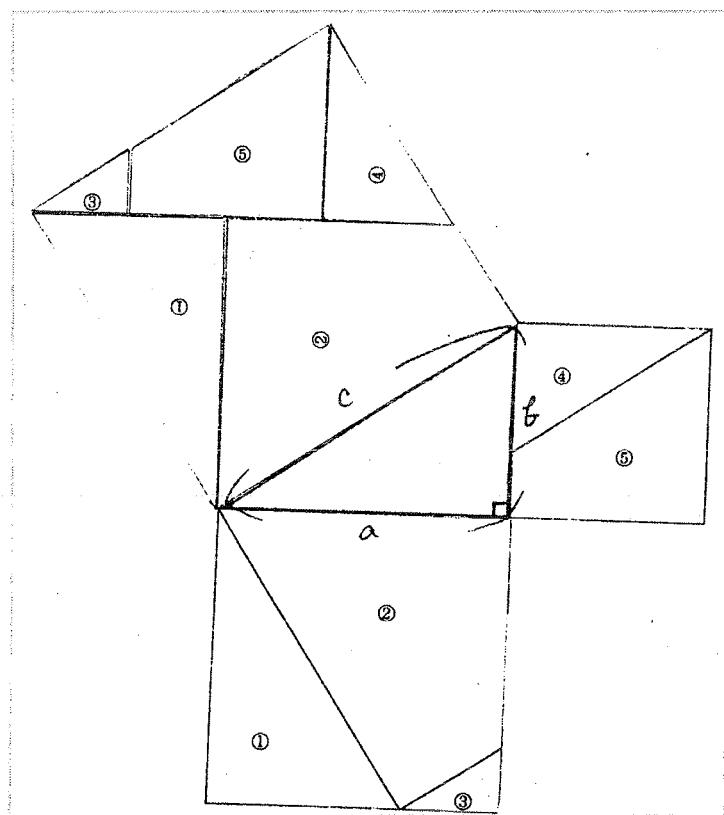
パズル①ができた生徒は、②に取り組ませる。①の経験から、簡単にできると思って始めるが、①に比べると切られた1つ1つの図形の大きさがバラバラであり、思うようにできない。途中、「全部使わないといけないんですか?」とか「本当にできるんですか?」などといった質問が出る。また 90° に注目し、元の正方形の 90° を使い、正方形でなく長方形ができる場合もある。試行錯誤の末、1人ができるとその声に刺激され、段々と完成させる生徒が出てくる。大方の生徒ができた所で、どこの 90° を利用するか説明し、元の形から新しく正方形をつくる方法を説明する。

(3)まとめについて

残っていたパズル②を2つの正方形に切り離し、作り上げた正方形を右の図のようにノートに配置させる。そして『三平方の定理』の3辺の関係「 $a^2 + b^2 = c^2$ 」について説明する。

成 果

『三平方の定理』は3年生最後の单元で、塾にいっている生徒は既に知識として習っている。しかし、パズルや右の図の関係から改めて納得し、感動する生徒もいる。また、元の2つの正方形の切る線に注目させると、任意の2つの正方形でも切り方で1つの正方形に並べ替えることができることを理解することができた。



生徒にノートに貼らせた図形

一人一人が実感でき、感動できる観察活動のあり方

—「チョウをそだてよう」「こん虫をしらべよう」における実践を通して—

川口市立戸塚南小学校 教諭 橋爪 優

はじめに

第3学年は、理科という教科の大切な導入期である。「わかった！楽しい！もっと知りたい！」と、児童が思える学習を行わなければいけない。そのためには、やはり一人一人の興味・関心を高め、一人一人が実感でき、感動できる実験・観察を行うことが必要である。

本単元では、身近に見られる昆虫をできるだけ取り上げ、成長の様子や体のつくりについてせまっていくことにした。

ねらい

ここでは、身近に見られる昆虫等を比較しながら調べ、見いだした問題を興味・関心をもって追究する活動を通して、生物を愛護する態度を育てるとともに、成長のきまりや体のつくり、生物同士のかかわりについての見方や考え方を養うことをねらいとしている。

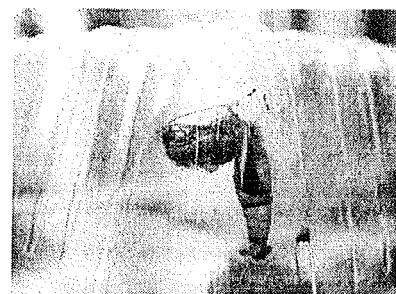
実践例

(1) 「チョウをそだてよう」授業の進め方の工夫

- 卵は1卵ずつ産みつけられているので、カッターなどで、キャベツを1cm四方に切っておく。
(最初は一つあればよい)
- 「一人一つあげるよ」といって、たまご付き1cm四方のキャベツ実物を見せ、用意すべきものを考えさせる。(幼虫からあげてもよい)
- 児童数分のキャベツを1cm四方に切っておく。
- 選ばせて、名前をつける。(選ばせるのがポイント) 自分のモンシロチョウとしての第一歩。
- 飼育している途中で死んでしまったり、いなくなってしまったりしたら、クラスで飼っているものから、また選ばせる。
このようにしていくと、飼育活動の興味は尽きず、生物を愛護する態度も育つ。
- ※キャベツの苗を植え付けるなら4月初めに行う。次年度のために、タネをまく場合は11月頃に行う。

(2) 羽化の観察の工夫

- モンシロチョウは春と夏では幼虫や蛹の期間が変わる。それは気温(飼育温度)と関係がある。気温(飼育温度)が高ければ高いほど、幼虫や蛹の期間は短くなり、高いほど短くなるのである。そのため、羽化を観察する際、蛹の殻が透明になり、羽の色が現れてきたら、できるだけ



「あっ、でてきた！」

観察させたい時間にライトで光を当てたり、ヒーターを当てたりして温める（または、温めておく）と、蛹から成虫になる確率が高い。逆に、飼育温度を下げることで成長を遅らせることも可能である。これらの方で、児童は幾度も羽化の瞬間に立ち会うことができた。しかし、温めすぎると、死んでしまうので、35℃前後までにしたい。

○トンボの場合は逆で、夜に成虫となるものが多いため、光を当てられることをいやがる。

羽化を授業時間に見られるようにするには、段ボールをかけるなどして、暗くするほうがよい。

（3）「こん虫をしらべよう」授業の進め方の工夫

○昆虫の分類や、体のつくりの学習において、実物を使うのが一番であるが、数に限りがあったり、虫が得意な児童がいたりする。また、前述のモンシロチョウは身近であったにもかかわらず、本单元で身近でない昆虫を使うとなると、興味・関心は一気に薄らいでしまう。

そこで、生き物係の児童や虫取りが好きな児童に、学習前から、数種類の昆虫を採集させ、名前をつけて飼育した。そして、児童を使ってデジタルカメラで画像を撮り、ラミネートする「昆虫カード」を作成して、授業の様々な場面で活用した。

○アゲハチョウ、モンシロチョウはクラスで羽化したもの。それ以外は学校周辺で採集したもの。

昆虫の定義や分類が理解しやすいように、昆虫でないダンゴムシも入っている。「完全変態」の昆虫はカブトムシとモンシロチョウ、アゲハチョウ。

「不完全変態」の昆虫はトンボ（アキアカネ）とイナゴである。

○昆虫カードの裏は、観察しにくい腹側から画像を写してある。

そのため、虫が苦手な児童にも、「頭・胸・腹」があること、「胸に6本のあしがついていること」が、よく理解できた。

（4）手軽に安価に拡大写真撮影

○市販しているライトスコープ（小型顕微鏡）とデジタルカメラ

があれば、教室でも手軽に昆虫の頭などの拡大写真を撮ることができる。ライトスコープ（中村理科）には名前の通り、ライトがついている。簡単なレンズ合わせのみで下のような写真撮影が可能である。



（かまきりの目）

（5）夏休みに観察しやすい羽化

○幼虫から成虫への変化を確認しやすい

のは、せみ（とくにアブラゼミ）である。大きな木のそばでよく見かけるせみ穴には、すでに幼虫が出ててしまっているものもあるが、まだ中に幼虫がいるものもある。コップ半分ほどの水を入れると、あわてて出てくるので、採集しやすい。これを家のカーテンなどにとめておくと、神秘的な変化が確認できる。夏休みの課題等に適し、取り組みやすい。

成 果

一人一人の大きな直接体験は、感動だけでなく、学ぶ意欲や学力にも結びつくことが実感できた。今後もできるだけ、一人一人に実験・観察を行えるような工夫、実験・観察しにくいものを視覚的に、そして体験的にとらえさせる実感・感動のある活動を試みていきたい。

学校は、ふしぎ?ワクワク!小さな科学館

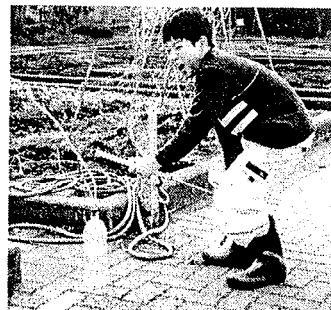
~サブテーマ~

いろいろな展示物や掲示物を工夫し、児童の自然の事物・現象に興味・関心を高める

川口市立原町小学校 教諭 郡 豊

はじめに

児童の生活する川口市は都市化が進んでいる。それに伴い、草花で遊んだり、昆虫や小動物を育てたり、空を眺めたりするような自然に親しむ機会が少なくなってきた。また、カードゲーム、テレビゲームなど手軽に楽しめる既製のものが周りにあふれ、手作りのおもちゃを工夫して遊ぶ機会も少なくなってきた。



理科の授業では、次のような児童の姿が見られる。

- ・日常生活での自然の事物・現象に対し、興味・関心が薄く、児童がもつ科学的な知識を授業に生かそうとしない。
- ・理科で学んだことを日常生活と関連づけて考えたり、日常生活に生かしたりすることが少ない。

そこで、日常生活の中で自然の事物・現象に興味・関心を高めることはできないだろうかと考えた。

ねらい

理科の授業に主体的に取り組んでいる児童は、日常生活でも動植物に興味があったり、ものを作ることが好きだったり、天気の変化や星空に関心があつたりする。また、進んで科学館へ行ったり、自然や科学を扱ったテレビ番組や図書資料を見たりして知識を深めている。このような素養を身につけた児童は、身近な自然の事物・現象の中に課題を見つけ追究していくことができる。

そこで、校内に自然や科学に目を向けるための展示物や掲示物を用意した。実物を見たり、実際に触り遊んだりする機会を作ることで、児童の五感を刺激し、日常生活の中にある自然科学的事象への興味・関心を高めていこうと考えた。

実践例

(1)身の回りの生き物に目を向けさせる

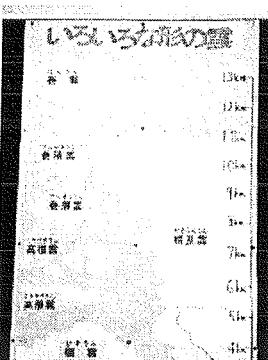


4年生の学習にツルレイシの観察がある。それに合わせ、ヘチマ、ヒヨウタンを校舎の壁にはわせて栽培した。夏休みが終わると、校舎を登るようだいなに成長した植物の姿に児童たちは驚いていた。

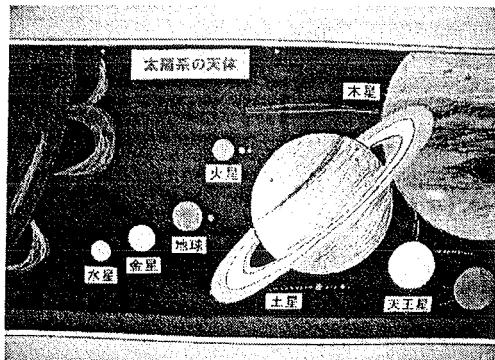


秋の栽培園には、たくさんの昆虫が集まっている。ツルレイシを継続して観察している児童がカマキリの卵嚢を見つけてきた。採取したカマキリの卵嚢をペットボトルに入れ、多くの児童が見られるようにした。

(2)掲示物で関心を高めさせる

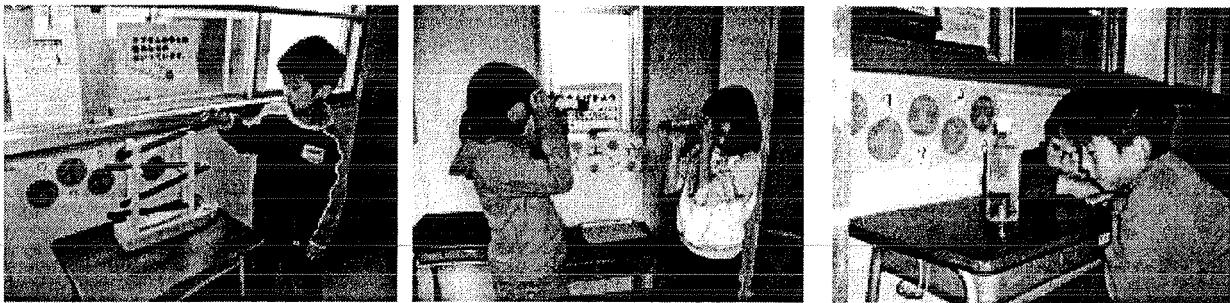


日頃、見ていている雲だけれども、ただ見ている児童が多い。そこで、いろいろな形の雲があることに気づかせようとした。



冥王星が話題になった。断片的に見聞きする「太陽系」「惑星」などの言葉とともに視覚的に知識を深めたいと考えた。

(3)遊びとして体験させる

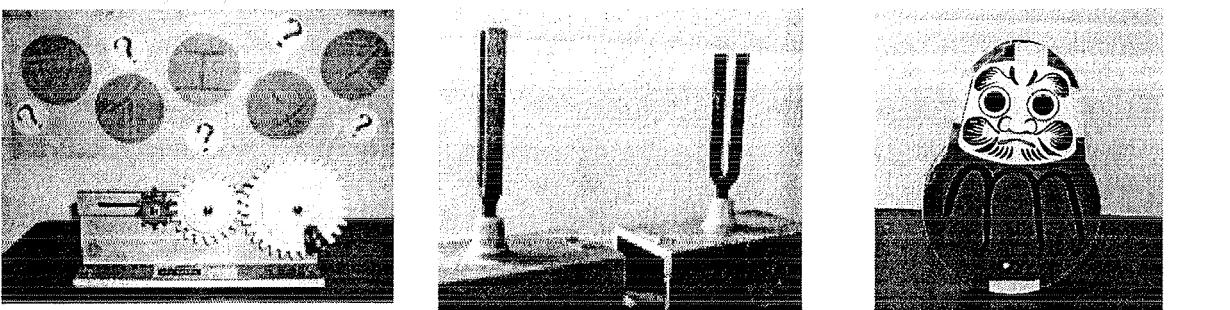


おもしろい転がり方をするなあ。
“どうしてだろう。”

回転させるといろいろな模様が見られるね。
“きれいだね。”

あわがだんだんなくなつていくんだね。
“不思議だな。”

(4)理科室に眠っている備品を活用する。

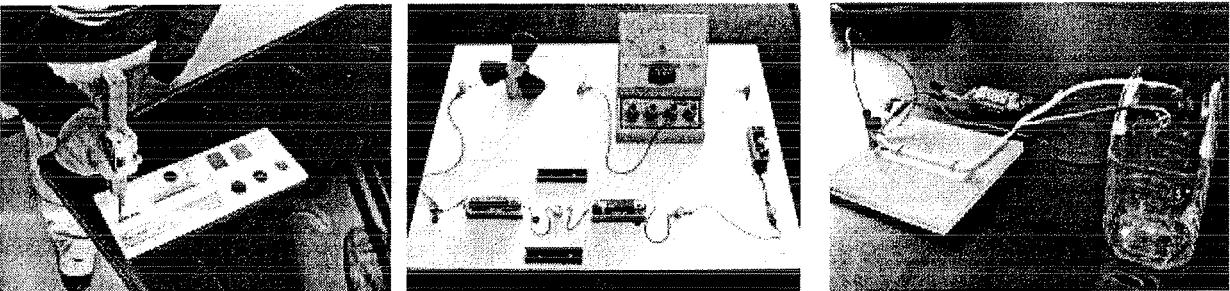


「歯車」
大きな歯車を1回回すと小さい歯車は何回回るでしょうか？

「音叉」
片方の音叉をたたいてしばらくするともう片方の音叉からも音が聞こえてくるよ。

「だるま」
だるまを軽く横に倒してみよう。起きあがって元にもどるよ。

(5)授業の補充・発展として操作させる。



学力状況調査の結果では、電流の大きさを答える問題の正答率が低かった。電気の回路の仕組みや電流の大きさなどを意識する機会が授業の中の数回の実験で終わっている。そこで、「電気を通すものと通さないもの」「乾電池のつなぎ方と電流の大きさ」「電磁石を使ったものづくり」の教具をつくり、展示コーナーに置いた。自由に操作し楽しむことで、補充・発展の学習につながった。

成 果

学習と意識しないところで、多くの児童が展示物や掲示物を楽しんでいた。自然や科学に対する興味関心を育てる足がかりになった。同時に、児童の生活経験の一部となり、関連する単元を前向きに学習する児童の姿が見られるようになった。また、授業の中で得た知識を持ちながら、自分なりの興味関心で展示物掲示物をさわったり、見たりすることができ、学習の発展にもつながった。

休み時間などに友だちと展示物掲示物を楽しみながら、「どうして?」「なぜ?」という話し合いをする様子が見られた。中には保護者との話題にしたり、自ら図書館インターネットなどで調べ学習に発展させたりする児童もあり、教室や授業以外の時間や場所で、児童の理科的な活動が広がりを見せた。

星や太陽の動きを デジタル教材でわかりやすく学ぼう！

～サブテーマ～

デジタル教材と観察・実験を組み合わせた授業の展開

川口市立神根中学校 教諭 五月女保幸

はじめに

近年、事象の因果関係を推論することが得意ではない生徒が増えている。筋道を立てて考えることを面倒がり、表面的な知識理解で満足してしまう傾向もある。理科の学力の中核は科学的思考力である。基礎学力を向上させるには、いかに科学的思考に取り組ませるかが課題である。そのためには生徒の学ぶ意欲を喚起し、思考力を養う授業の展開の工夫が必要である。デジタル教材は、抽象的な概念を視覚的に示したり、予想のもとにシミュレーションしたりできるなどの特徴をもつ教材である。その活用により、生徒の学習意欲を高めるとともに、観察・実験と併用することにより効果が期待される。

ねらい

単元「地球と宇宙」全体にデジタル教材の導入を図り、科学的思考力の伸長と知識理解の定着を図る授業展開を行う。シミュレーション、観察・実験との組み合わせ、観察の代替、学習のまとめの段階で活用を授業の構成に取り入れる。

実践例

使用教材 デジタル教材「天球図で探る地球と天体の動き」、「宇宙と天体」

出典：理科ねっとわーく（科学技術振興機構 <http://www.rikanet/jst/go.jp/>）

「つるちゃんのプラネタリウム」(<http://homepage2.nifty.com/turupura/>)

使用機材 プロジェクター コンピュータ 電子黒板

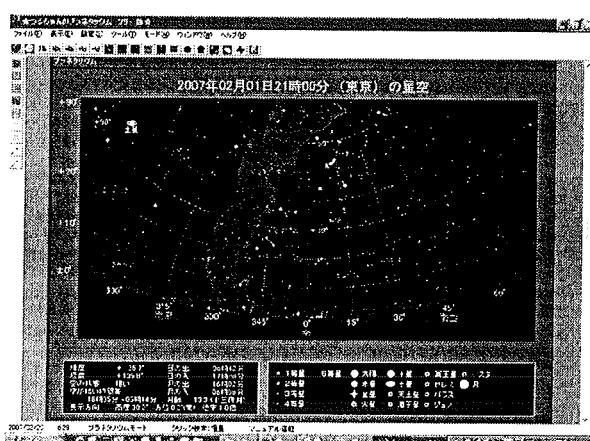
(1) シミュレーションとして

シミュレーションはコンピュータの得意技である。予想をたてシミュレーションで結果を確かめる過程は、問題解決的な授業展開に役立つ。

理科室にリサイクルコンピュータを10台設置し、それぞれにフリーソフト「つるちゃんのプラネタリウム」をインストールし、各班で作業できるようにした。ワークシートに月ごとの星の動きを記録させ、年周運動を確かめた。

これまで「黄道」の説明は苦労することが多かった。プラネタリウムソフトでは昼間の星の位置も表示できるので、星座間を移動する太陽の動きをワークシートに記録させ、説明が容易になった。

また、1日に何度動くか予想させシミュレーションしたところ、結果に驚く生徒の様子が見られた。

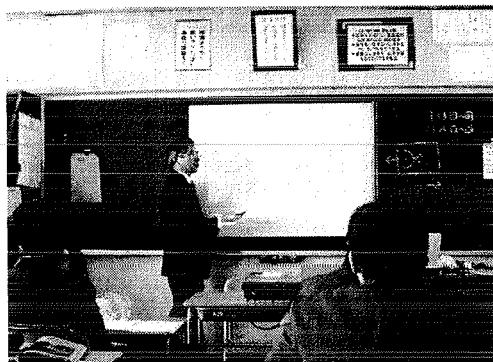


- ※ 「つるちゃんのプラネタリウム」インターネットでダウンロードでき、無料で使える。
- ※ コンピュータのOSは、ICT教育推進協議会の「スクールOS無償プログラム」により無償でwindows2000の提供を受けている。(http://www.ict-consortium.jp/)

(2) 観察の代替手段として

星の観察は、昼間の授業で実施するのが困難である。また、天候に左右されたり、観察に日数がかかるなど難点もある。デジタル教材はこうした観察の代替手段として有効である。

「星の日周運動」を扱う授業では、星の動きをプロジェクターで提示し、生徒にワークシート上に位置を書き入れさせた。「太陽の黒点」では、ホワイトボード上に太陽の表面を映し出し、黒点の位置と形の経過による変化をマーカーで記録した。なお、教材の提示には電子黒板（KOKUYO mimio）を用い、黒板上でコンピュータを操作した。



(3) 観察・実験の補助手段として

太陽の一日の動きを調べる実験を行う際、実験方法の説明に補助的に用いた。透明半球にサインペンを使って太陽の一目の動きを記録する観察は、日常の何気ない事柄の中に揺るぎのない法則性が潜むことを示す印象的な観察である。この観察では、サインペンの影を円の中心にあわせる説明の場面で、なかなか理解できない生徒がいる。そのため演示で見せることも多い。演示では教師の手元が見えにくいが、この教材を用いることでわかりやすくなる。

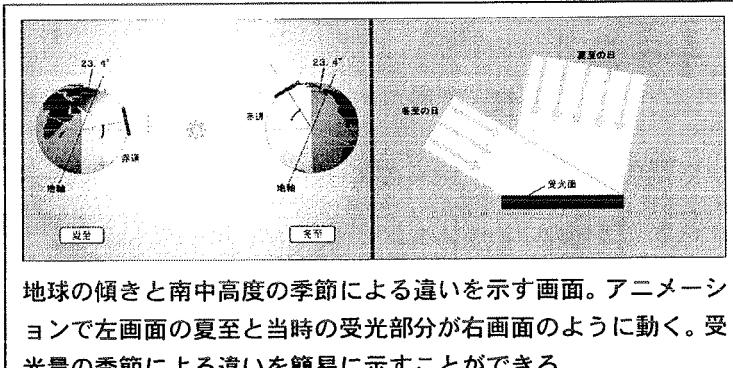
「理科ねっとわーく」のデジタル教材には、他にガスバーナーの使い方、グラフの書き方など同様の効果の期待できる教材がある。



(4) わかりやすい説明の補助として

天体の日周運動や年周運動は地球の自転や公転による見かけの現象であり、生徒たちにとって理解しにくい事柄である。わかりやすく生徒にすとんと落ちる説明が教師にとっての課題である。デジタル教材は、アニメーションを利用することで、その説明を容易にする。

「宇宙と天体」では、宇宙空間で自転する地球がアニメーションで提示されている。ボタンをクリックすることで、地球の回転をとめることができ、相対的に宇宙が地球の自転とは反対方向に動いていることが示せる。また、「天球図で探る地球と天体の動き」では太陽の南中高度と昼の長さの季節による変化は地球の地軸の傾きによることをアニメーションで示している物を用いる。授業では、一通り教師の説明を受けたあと、まとめの場面で使用する。



成 果

生徒のデジタル教材やコンピュータ・シミュレーションには親和性が強い傾向が見られた。授業の終末で用いた際、生徒から「よくわかった」という声が聞かれた。特に天体の分野は、直接体験を補えるので有効である。しかし、単独で用いるのではなく、実験・観察との適切な組み合わせが重要である。気象や大地の変化の教材でも効果が期待できる。

英語 中学校『Enjoy Writing!』

- ・川口市英単語検定に挑戦！
- ・英語詩で今の自分を表現しよう！

～サブテーマ～

語彙力と表現力の向上をめざして

川口市立木青木中学校 教諭 菊地信三



はじめに

平成17年度埼玉県学習状況調査の結果分析から、「書くこと」が「聞くこと」や「読むこと」に比べるとやや劣っていることがわかった。そこで「書くこと」を中心とした問題に再度取り組ませ、誤答分析を行った結果、単純なスペリングミスや、動詞の使い方が身についていない生徒が多いことが明らかになった。英語で話すことには抵抗はないが、「書くこと」は難しいと感じている生徒は多く、書けること=英語が出来ることと捉えた。そこで、興味・関心を保ちつつ、地道に書く力を向上させ、自信や達成感を味わわせることにつなげていけるような取り組みを考え、実践した。

ねらい

「書く」力を向上させるには、その基礎となる力として、正しく単語を綴ることができるスペリング力と、創造的に自分の思いや考えを書こうとする力との両方の力をつけていく必要がある。そこで教科書に出てくる重要単語を学年別・品詞別・カテゴリー別に分類し、さらに検定方式にすることにより達成目標を明確化させ、学習意欲の向上を図ることをねらった。また、創造的な「書く力」の向上のために、「英語詞」の創作に取り組み、英語で自己表現する喜びを味わわせることを考えた。

実践例

(1) 確実に力をつける家庭学習プリントについて

小学校では毎日のように、漢字練習が宿題として出されている。英語でもその必要性は同じであり、新出単語だけでなく、既習語についても繰り返し普段から書き取り練習をする必要がある。その習慣化のために、書き取りプリントを定期的に課し、提出させた。内容は単語の意味調べをし、10回綴るというものである。生徒にとっては取り組みやすく、教師もノート提出よりも簡単にチェックができる。比較的英語が苦手の生徒でも提出率は良好だった。英語を書くことに慣れさせるには大変効果的である。

プリント例)

Unit 2 The Shamisen Concert

単語	意味	1	2	3	4	5	6	7	8
concert									
report									
since									
continue									

(2) インターネットを使って語彙力アップ

Word Cup というサイトを使ってコンピュータ室で単語の4択問題に取り組ませた。サッカーのワールドカップのように、アジア地区予選から始まり、最終予選、本戦とすすみ、対戦相手国も表示され、大変楽しく問題に取り組める。自分の語彙レベルに合わせて戦いが選べるのがよい。

(3) 川口市英単語検定について

「川口市単語検定」は、各学校フォルダーの中にあるほか、CDで配布し、活用を図っている。検定は教室やコンピュータ室で実施した。3年生は3年間の総まとめとして、2年生は1、2年までの語彙力の確認として活用した。3年では6級から1級まで毎時間1級ずつ実施し、8割以上を達成した生徒には一番上の級での認定書を渡した。また希望する生徒の数名に自宅のPCで単語検定ソフトをやらせたところ、自宅学習の成果があらわれ、教室での検定結果が向上した例もあった。

川口市英単語検定 3級						
No.	単語	学年	意味	品詞	ここに入力！	○or×判定
1	ask	2	尋ねる・頼む	動詞		
2	bring	2	持ってくる	動詞		
3	buy	2	買う	動詞		

(4) 英語詩の創作について

身に付けた語彙を用いて、自分の思いや考えを表現できるように、3年生全員に卒業制作の一環として「英語詞づくり」に取り組ませた。文法的なルールに縛られることなく、比較的自由に単語を使えるため、英語をあまり得意していない生徒たちも意欲的に取り組んでいた。英文学の世界に創造的に触れることになれば大変嬉しい。(生徒の作品より)。

Morning
Goodby moon!
Hello sun, bird and mother
I'm sleepy
What will I do today?

Family
Grandmother
Father and mother
A brother, two sisters
And me
This is my family.
Thanks.

成 果

先日、昨年までお世話になっていたALTから学校宛に届いたメールを生徒にプリントアウトして配ったところ、むさぼり読む生徒たちに、読むことへの意欲を感じた。単語が分かれれば文章も分かる。単語が書ければ、文字で自分を表現できる。世界の大多数の人たちと文字を通じて、コミュニケーションできる喜びを味わわせるためにも、自分の英語力に自信を持たせるためにも、「書くこと」から出発する取り組みは有効であると思う。

Dogs
Sleeping Eating Playing
Sometimes barking
I don't know what you mean.
Please listen
To me

※本事例集に掲載されている内容は、ネットワークハードディスク・各学校フォルダ・
「★学力向上」のフォルダー内（pdfファイル）として収めてあります。

※川口市児童生徒学力向上支援事業につきましては、教育委員会ホームページ
<http://www.city.kawaguchi.saitama.jp/education/> に掲載されています。

平成17・18年度川口市児童・生徒学力向上推進委員会委員・事例集作成協力者

委員長	学校教育部長	田村 茂治
副委員長	川口市立領家中学校 校長	都築 博文
副委員長	川口市立芝小学校 教頭	戸ヶ崎幾江
委 員		
	川口市立戸塚北小学校 教諭	田嶋 陽子
	川口市立新郷小学校 教諭	秋山 匠俊
	川口市立青木中央小学校 教諭	渡邊 恵
	川口市立原町小学校 教諭	郡 豊
	川口市立芝中学校 教諭	加藤 裕子
	川口市立西中学校 教諭	小林 智之
	川口市立東中学校 教諭	浅井 勝之
	川口市立神根中学校 教諭	五月女保幸
	川口市立青木中学校 教諭	菊地 信三
協 力 者		
	川口市立神根東小学校 教諭	岡田 大助
	川口市立領家小学校 教諭	尾田 賢一
	川口市立上青木中学校 教諭	鈴木 幸吉
	川口市立戸塚南小学校 教諭	橋爪 優
事務局	次長兼指導課長	大沢 春樹
	指導課主幹	細井 和男
	指導課主幹	足助 啓子
	指導主事	大竹 伸明
		石川 秀雄
		熊谷 茂樹
		清水 健治
		瀧沢 靖雄
		高橋 剛介
		春山 正実
		森田 彩子

川口市児童生徒学力向上推進委員会設置要綱

(目的及び設置)

第 1 条 川口市児童生徒の学力向上を図るため、川口市児童生徒学力向上推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(事業)

第 2 条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 児童生徒の学力に関する調査研究
- (2) 学力向上に関する研究会、講習会等の開催
- (3) 学力向上に関する広報活動
- (4) その他この会の目的達成に必要な事業

(組織)

第 3 条 委員会は、川口市教育委員会が委嘱する次の委員をもって組織する。

- (1) 学校教育部長
- (2) 小・中学校 校長・教頭 若干名
- (3) 小学校 各教科（国・算・理・社）担当教諭 若干名
- (4) 中学校 各教科（国・数・理・社・英）担当教諭 若干名

2 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員会の設置は、平成20年12月31日までとする。ただし、設置期間の延長を妨げない。

(役員)

第 4 条 委員会に、次の役員を置く。

委員長1名 副委員長若干名

2 委員長は、委員会を代表し、会務を処理する。

3 委員長は、学校教育部長があたる。

(会議)

第 5 条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

(庶務)

第 6 条 事務局は教育委員会に置き庶務を担当する。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

付 則

この要綱は、平成18年2月9日から施行する。